

1 整数と小数 ①

名前

ねらい

小数は整数と同じ十進位取り記数法によって表されていることを理解する。

① □の中にあてはまる数を書きましょう。

$$\textcircled{1} \quad 63.497 = 10 \times \boxed{6} + 1 \times \boxed{3} + 0.1 \times \boxed{4} + 0.01 \times \boxed{9} + 0.001 \times \boxed{7}$$

$$\textcircled{2} \quad 3.904 = 1 \times \boxed{3} + 0.1 \times \boxed{9} + 0.01 \times \boxed{0} + 0.001 \times \boxed{4}$$

$$\textcircled{3} \quad 520.003 = \boxed{100} \times 5 + \boxed{10} \times 2 + \boxed{0.001} \times 3$$

② 次の数を書きましょう。

① 1を2個、0.1を3個、0.01を5個あわせた数

2.35

② 0.01を86個あわせた数

0.86

③ ①、②、③、⑧、⑨の5まいのカードを並びかえて、いちばん大きい数と小さい数をつくりましょう。

① いちばん大きい数

98321

② 2番目に大きい数

98312

③ いちばん小さい数

12389

④ 2番目に小さい数

12398

1 整数と小数 ②

名前

ねらい 10倍、100倍の大きさの数を作り、それらの関係を小数点の移動に着目して理解する。

Ⅰ 次の数を書きましょう。

① 2.42を10倍した数

24.2

② 30.502を100倍した数

3050.2

Ⅱ 次の（ ）の中にあてはまる言葉を、
□の中にはあてはまる数を書きましょう。

① 整数や小数を10倍、100倍すると、位が上がって小数点は、
それぞれ（ 右 ）へ1けた、 2 けたと移ります。

② 整数や小数を 1000 倍すると、
位が上がって小数点は右へ3けた移ります。

Ⅲ 次の数は（ ）の中の数を何倍した数でしょう。

① 52.02 (5.202)

10 倍

② 86320 (86.32)

1000 倍

③ 3400.2 (34.002)

100 倍

1 整数と小数 ③

名前

ねらい $1/10$ 、 $1/100$ の大きさの数を作り、それらの関係を小数点の移動に着目して理解する。

① 次の数を書きましょう。

① 14.6 を $\frac{1}{10}$ にした数

1.46

② 7.4 を $\frac{1}{100}$ にした数

0.074

② 次の（ ）の中にあてはまる言葉を、□の中にはあてはまる数を書きましょう。

① 整数や小数を $\frac{1}{10}$ 、 $\frac{1}{100}$ にすると、位が下がって小数点は、それぞれ（左）に1けた、□ 2 けたと移ります。② 整数や小数を $\frac{1}{1000}$ にすると、位が下がって小数点は、左へ3けた移ります。

③ 次の数は42.5の何分の1の数でしょうか。

① 4.25

 $\frac{1}{10}$

② 0.0425

 $\frac{1}{1000}$

③ 0.425

 $\frac{1}{100}$

2 体積 ①

名前

ねらい 体積の意味、体積の単位「 cm^3 」を理解する。

① 1辺が1cmの立方体の積み木を使って、右のような直方体を作りました。

① 1辺が1cmの立方体の体積は何 cm^3 でしょうか。

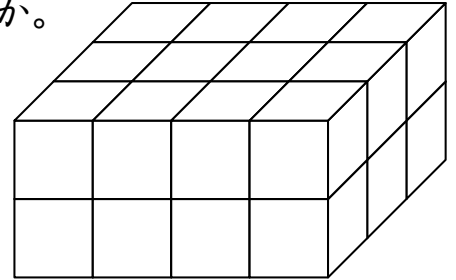
(1cm^3)

② 右の直方体は1辺が1cmの立方体がいくつあるでしょうか。

(24個)

③ この直方体の体積は何 cm^3 でしょうか。

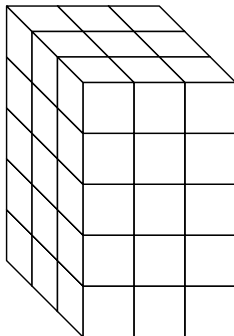
(24cm^3)



② 1 cm^3 の立方体を使って、下の図のような図形を作りました。

それぞれの図形の体積を求めましょう。

①

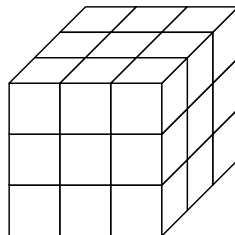


(例)

$$3 \times 3 \times 5 = 45$$

(45cm^3)

②

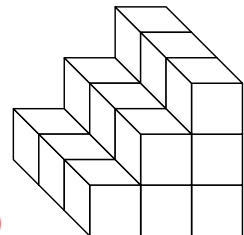


(例)

$$3 \times 3 \times 3 = 27$$

(27cm^3)

③

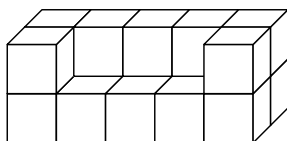


(例)

$$3 + 6 + 9 = 18$$

(18cm^3)

④

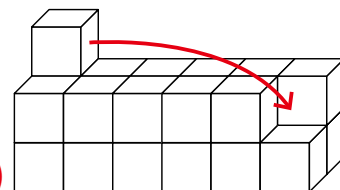


(例)

$$2 \times 5 \times 2 - 3 = 17$$

(17cm^3)

⑤



(例)

$$2 \times 6 \times 2 = 24$$

(24cm^3)

2 体積 ②

名前

ねらい 直方体の体積を計算で求める仕方を理解する。

- ① 右の直方体の体積を計算で求める方法を考えましょう。
次の□にあてはまる数を書きましょう。

① □ **1** cm^3 の立方体は何個ならぶかで考えます。

② 1だんめのたてには 1cm^3 の立方体が

□ **3** 個ならびます。

③ 1だんめの横には6列ならぶので、1だんめにある
 1cm^3 の立方体の数を求める式は、

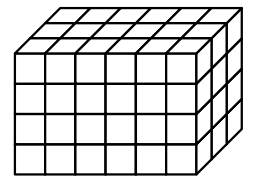
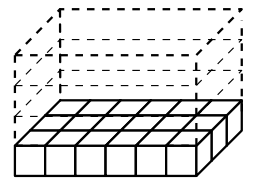
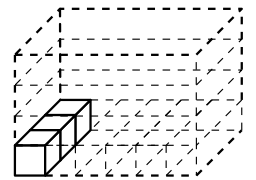
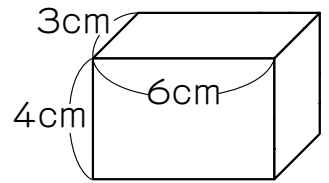
□ **3** $\times$ □ **6** です。

④ 1だんめの数が □ **4** だん積みえます。

だから、全部の 1cm^3 の立方体の数を求める式は、

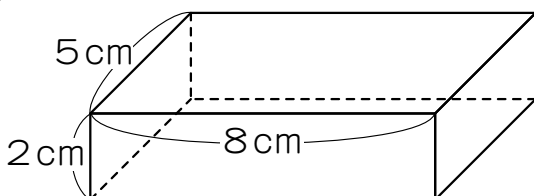
□ **3** $\times$ □ **6** $\times$ □ **4** です。

⑤ この直方体の体積は、□ **72** cm^3 になります。



- ② 次の直方体の体積を求めましょう。

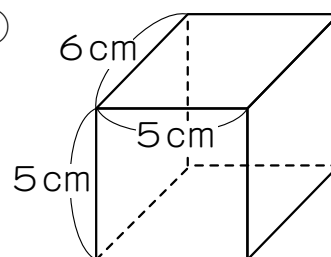
①



式 $5 \times 8 \times 2 = 80$

答え 80cm^3

②



式 $6 \times 5 \times 5 = 150$

答え 150cm^3

ねらい 立方体の体積を計算で求める仕方を考え、体積の公式を理解する。

- ① 右の立方体の体積を計算で求める方法を考えましょう。
次の□にあてはまる数を書きましょう。

① □ **1** cm^3 の立方体は何個ならぶかで考えます。

② 1だんめのたてには 1cm^3 の立方体が

□ **3** 個ならびます。

③ 1だんめの横には3列ならぶので、1だんめにある
 1cm^3 の立方体の数を求める式は、

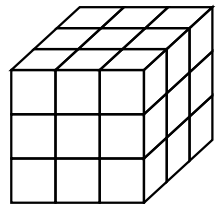
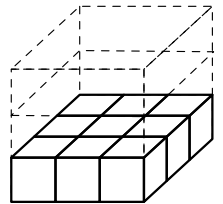
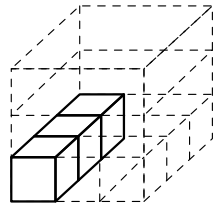
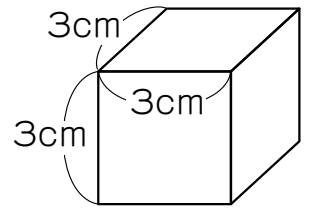
□ **3** $\times$ □ **3** です。

④ 1だんめの数が □ **3** だん積みです。

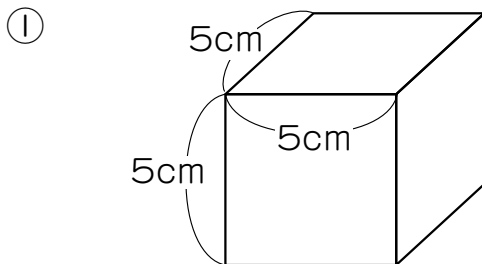
だから、全部の 1cm^3 の立方体の数を求める式は、

□ **3** $\times$ □ **3** $\times$ □ **3** です。

⑤ この直方体の体積は、□ **27** cm^3 になります。

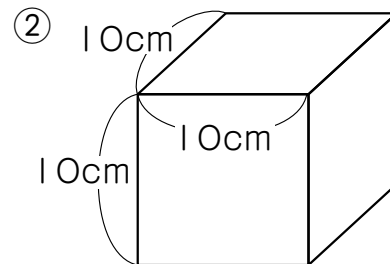


- ② 次の直方体の体積を求めましょう。



式 $5 \times 5 \times 5 = 125$

答え 125cm^3



式 $10 \times 10 \times 10 = 1000$

答え 1000cm^3

ねらい 体積の単位「 m^3 」を理解する。

① たて4m、横5m、高さ3mの直方体があります。

この直方体の体積を求めます。

次の（ ）の中にあてはまる単位を、□の中には数を書きましょう。

① 1辺が1mの立方体の体積は、

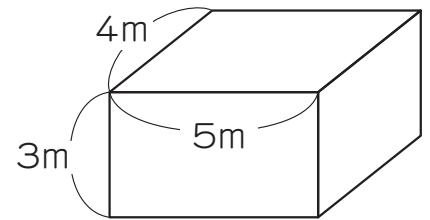
□ (m^3) です。

② 右の直方体の体積を求める式は、

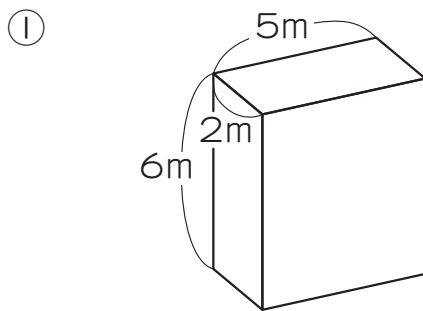
□ × □ × □ = □

③ この直立体の体積は、

□ (m^3) です。

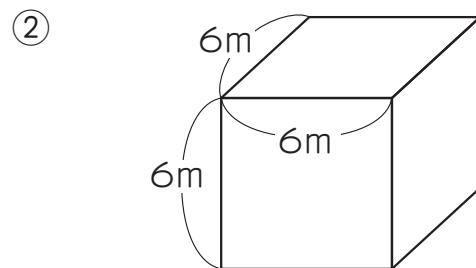


② 次の直方体や立方体の体積を求めましょう。



〈式〉 $2 \times 5 \times 6 = 60$

答え 60m^3



〈式〉 $6 \times 6 \times 6 = 216$

答え 216m^3

ねらい 「 m^3 」と「 cm^3 」の関係を理解する。

1 次の□の中にあてはまる数を書きましょう。

① 1m^3 の立方体の中に 1cm^3 をならべていくと、

1だんめのたてには 1cm^3 の立方体が

100 個ならびます。

② 同じように、1だんめの横には

100 個ならびます。

③ この立方体の体積は、

100 × **100** で **10000** 個ならびます。

④ 高さが 100cm だから、1だんめにならべた立方体が

100 だん積めるので、

1m^3 の立方体にならべられる 1cm^3 の数は

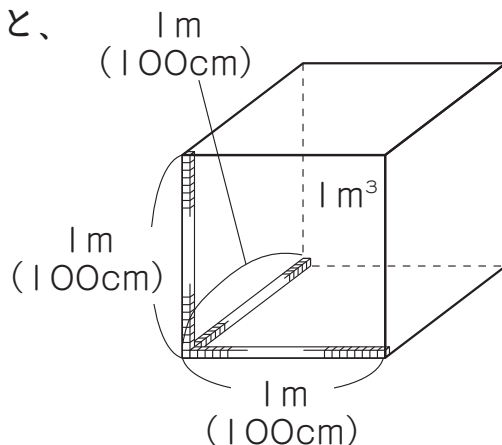
100 × **100** × **100** 個です。

↑
たての個数

↑
横の個数

↑
高さの個数

⑤ だから、 $1\text{m}^3 =$ **1000000** cm^3 となります。



2 次の□の中にあてはまる数を書きましょう。

① $3\text{m}^3 =$ **3000000** cm^3

② $4000000\text{cm}^3 =$ **4** m^3

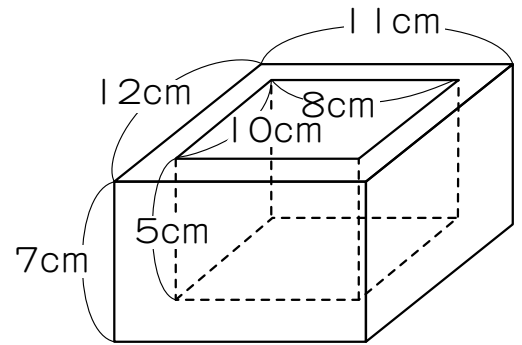
ねらい 容積、内のりについて理解する。

- ① 次の（ ）の中にあてはまる言葉を、
□の中にはあてはまる数を書きましょう。

- ① 右のような入れ物などの

内側のたて、横、深さのことを

（ **内のり** ）といいます。



- ② 入れ物の内側いっぱいの体積を、その入れ物の（ **容積** ）といいます。

右の入れ物の場合、（ **容積** ）は

たて×（ **横** ）×（ **深さ** ）の式で求められます。

- ③ 右の入れ物の（ **内のり** ）は、

たては10cm、横は 8 cm、深さは 5 cmになります。

- ④ この入れ物の（ **容積** ）は

10 × 8 × 5 で、400 cm³です。

↑
たて

↑
横

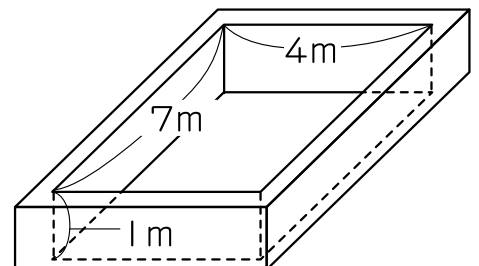
↑
高さ

- ② 右のような直方体の形をした水そうがあります。

この水そうの容積は何m³でしょうか。

〈式〉 **$7 \times 4 \times 1 = 28$**

答え **28m^3**



ねらい 「L」と「cm³」の関係を理解する。

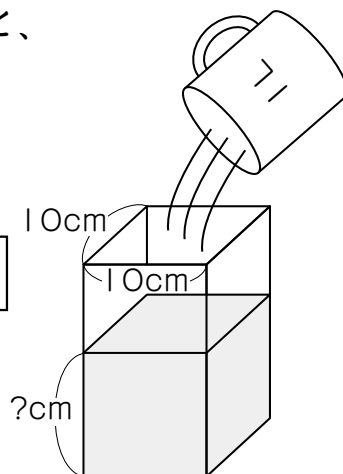
① 次の□にあてはまる数を書きましょう。

- ① 1Lの水をたて10cm、横10cmの入れ物に入れると、
高さは 10 cmになります。

- ② このことから、

$$1\text{Lは } \boxed{10} \times \boxed{10} \times \boxed{10} = \boxed{1000}$$

$$1\text{L} = \boxed{1000} \text{ cm}^3 \text{ であることがわかります。}$$



② 次の□にあてはまる数を書きましょう。

① 10L = 10000 cm³

② 2000cm³ = 2 L

③ 0.75L = 750 cm³

④ 10mL = 10 cm³

⑤ 3000000cm³ = 3 m³ = 3000 L

⑥ 6m³ = 6000 L

⑦ 500L = 0.5 m³

⑧ 1.5L = 1500 cm³

ねらい 長さ、面積、体積の単位の関係をまとめ、理解を深める。

Ⅰ 長さや面積の単位をもとにして、体積の単位についてまとめましょう。

正方形の1辺の長さ	1 m	10cm	1 cm
正方形の面積	1 m ²	100cm ²	1 cm ²
立方体の体積	1 m ³	1000cm ³	1 cm ³
	1 kL	1 L	1 mL

① 次の単位を上を表のあてはまるところに書きましょう。

・ 1 m² ・ 1 cm² ・ 1 m³ ・ 1 cm³ ・ 1 kL ・ 1 mL

② 1 m³は1 cm³の何倍でしょうか。

(1000000) 倍

③ 1 kLは1 Lの何倍でしょうか。

(1000) 倍

④ 1 mLは1 Lの何倍でしょうか。

($\frac{1}{1000}$) 倍

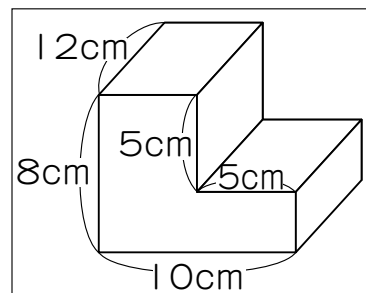
⑤ 1 m²は1 cm²の何倍でしょうか。

(10000) 倍

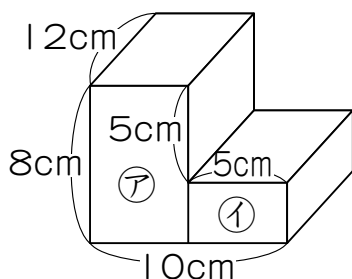
ねらい

複合図形の体積の求め方を考え説明し、体積の公式についての理解を深める。

① 右のような立体の体積をくふうして求めましょう。



① 2つの直方体に分けて体積を求めましょう。

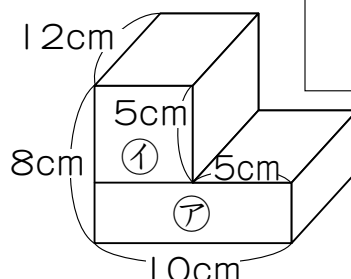


$$\langle \text{式} \rangle \quad \text{ア} \quad 12 \times 5 \times 8 = 480$$

$$\text{イ} \quad 12 \times 5 \times 3 = 180$$

$$480 + 180 = 660$$

$$\text{答え} \quad 660\text{cm}^3$$



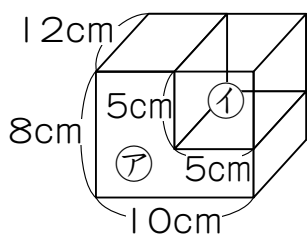
$$\langle \text{式} \rangle \quad \text{ア} \quad 12 \times 10 \times 3 = 360$$

$$\text{イ} \quad 12 \times 5 \times 5 = 300$$

$$360 + 300 = 660$$

$$\text{答え} \quad 660\text{cm}^3$$

② ①を加えた大きな直方体の体積アから①の直方体の体積をひいて求めましょう。



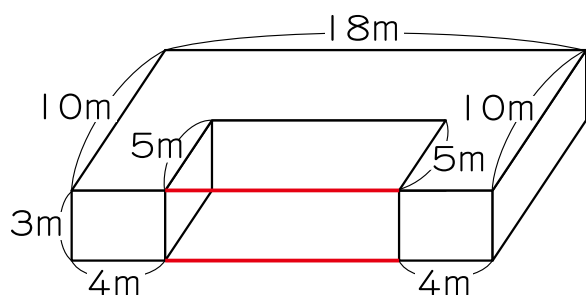
$$\langle \text{式} \rangle \quad \text{ア} \quad 12 \times 10 \times 8 = 960$$

$$\text{イ} \quad 12 \times 5 \times 5 = 300$$

$$960 - 300 = 660$$

$$\text{答え} \quad 660\text{cm}^3$$

② 下のような立体の体積をくふうして求めましょう。



〈式〉 全体から部分をひいて

$$(\text{例}) \quad 10 \times 18 \times 3 = 540$$

$$5 \times 10 \times 3 = 150$$

$$540 - 150 = 390$$

$$\text{答え} \quad 390\text{m}^3$$

2 体積
(学んだことを使おう) ⑩

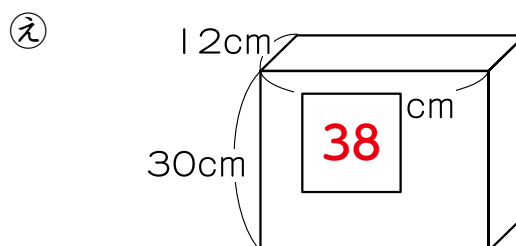
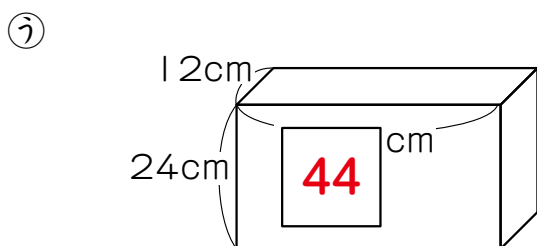
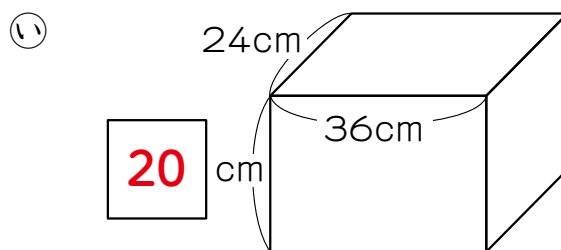
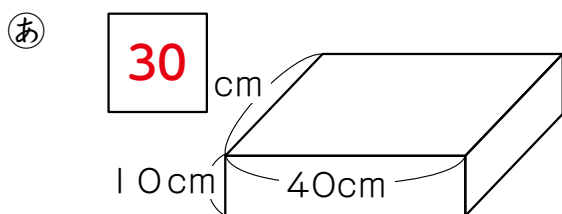
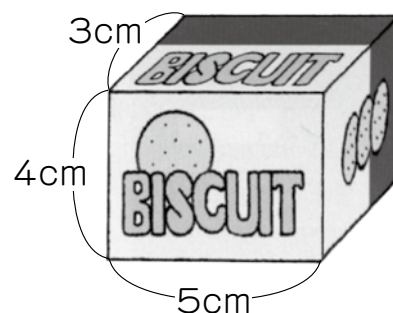
名前

ねらい

日常生活の場面と関連付けて、体積の学習を活用することができる。

- ① 右のような直方体の形をしたおかしを箱につめて、^{たく}宅配便で送ります。
Mサイズの送料で送るには、箱の大きさを、たて、横、高さの3つの辺の長さの和が80cm以下の直方体にすればよいそうです。

- ① 3つの辺の長さの和が80cmになるように
見取り図をかきました。
□の中にあてはまる数を書きましょう。



- ② 上の㉒～㉔の箱の見取り図の中で、最も多くのおかしをつめられる箱の見取り図はどれでしょうか。また、何個つめることができるでしょうか。

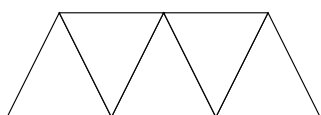
(㉓) の箱の見取り図 288 個

3 2つの量の変わり方 ①

名前

ねらい 伴って変わる2つの数量の関係について、表を用いて考える。

- ① ストローで正三角形を横につなげた形を作るときの、正三角形の数とストローの本数を表にまとめました。表にあてはまる数を書き入れて、表を完成させましょう。



.....

| 増える | 増える

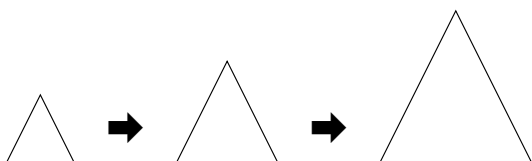


正三角形の数 (個)	1	2	3	4	5	6	
ストローの本数 (本)	3	5	7	9	11	13	



増える 増える

- ② 正三角形の、1辺の長さで周りを囲う長さを表にまとめます。□にあてはまる数を書き入れて、表を完成させましょう。



| 増える | 増える



正三角形の数 (個)	1	2	3	4	5	6	
ストローの本数 (本)	3	6	9	12	15	18	



増える 増える

3 2つの量の変わり方 ②

名前

ねらい 伴って変わる2つの数量の関係について、表をもとに比例の意味を理解する。

- Ⅰ 1分間に2Lずつの水を入れたときの時間と水の量について考えます。
次の問いに答えましょう。

- ① 下の表のあいているところに、あてはまる数を書きましょう。

水を入れた時間 (分)	1	2	3	4	5	6	
水の量 (L)	2	4	6	8	10	12	

- ② 上の表から気づいたことを、だいごさんとたかこさんが話しています。
() に言葉を、□には数を入れましょう。

だいごさん：水を入れた時間と水の量は(比例)しています。

なぜなら、水を入れた時間が2倍、3倍…になっている時に、

水の量も 倍、 倍…になっているからです。

たかこさん：私は、他のきまりを見つけました。

(水の量) は、いつでも (水を入れた時間) の
2倍になっています。

- ③ 水を入れた時間を○分、水の量を△Lとして、○と△の関係を
式に表しましょう。

〈式〉 $2 \times \bigcirc = \triangle$

- ④ 10分間水を入れると、水の量は何Lになるでしょうか。

〈式〉 $2 \times 10 = 20$

答え 20L

3 2つの量の変わり方 ③

名前

ねらい

2つの数量の関係を○、△を用いた式に表し、変わり方を調べることができる。

1 次の㉔～㉔の場面について、○と△の関係を式に表しましょう。

- ㉔ 300ページの本の読んだページ数○と、残りのページ数△ページ。

〈式〉 $\bigcirc + \triangle = 300$ または、 $300 - \bigcirc = \triangle$

- ㉕ 1本2gのくぎの本数○本と、その重さ△g。

〈式〉 $2 \times \bigcirc = \triangle$

- ㉖ たて3cm、横5cmの直方体の高さ○cmと、体積△cm³。

〈式〉 $3 \times 5 \times \bigcirc = \triangle$ ($15 \times \bigcirc = \triangle$)

- ㉗ 1個150円のケーキを50円の箱に入れてもらうときの
ケーキの数○個と、代金△円。

〈式〉 $150 \times \bigcirc + 50 = \triangle$

- ㉘ 20cmのローソクのもえた長さ○cmと、残りの長さ△cm。

〈式〉 $20 - \bigcirc = \triangle$ ($\bigcirc + \triangle = 20$)

2 上の㉔～㉘の式で、○と△の関係を調べて、
次の①から③の関係にあるものを選びましょう。

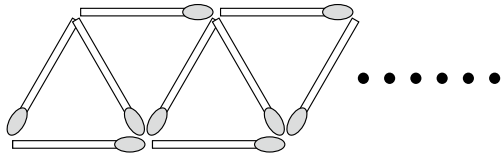
- ① ○が増えると△も増える。 (い う え)

- ② ○が増えると△は減る。 (あ お)

- ③ △は○に比例する。 (い う)

ねらい 伴って変わる2つの数量の関係を表や図を用いて考察し、その関係を式に表して問題を解決することができる。

Ⅰ 下のように、マッチ棒で正三角形を横につなげた形を作ります。



① 下の表のあいてるところに、あてはまる数を書きましょう。

三角形の個数 (個)	1	2	3	4	
マッチ棒の数 (本)	3	5	7	9	

② 正三角形の数が5個のときのマッチ棒の本数の求め方について、あきらさんとくみこさんが説明しています。

2人の説明として、もっとも適した式をえらび、記号で答えましょう。

あきらさん：はじめに正三角形が1つあり、

その後、正三角形が1つ増えるたびに、

マッチ棒が2本ずつ増えています。

くみこさん：はじめに1本だけマッチがあり、正三角形1つにつき、

マッチ棒が2本ずつ増えています。

ア： $3 \times 5 - 4$	あきらさんの式	(ウ)
イ： $1 + 2 \times 5$	くみこさんの式	(イ)
ウ： $3 + 2 \times 4$		

③ くみこさんの式で正三角形の数を○個、マッチ棒の数を△本として、○と△の関係を式に表しましょう。

また、正三角形が50個の時のマッチ棒の数を求めましょう。

○と△の式 $1 + 2 \times \bigcirc = \triangle$

正三角形が50個の時のマッチ棒の数 **101本**

★ 算数ワールド
2000cm³を作ろう

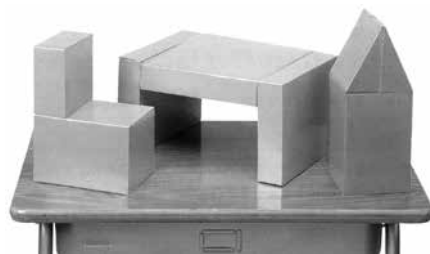
名
前

ねらい 体積の公式について理解を深め、体積についての感覚を豊かにする。

- ① 体積が2000cm³の直方体を作るには、
たて、横、高さをそれぞれ何cmにすればよいでしょうか。
□に数を入れて、体積が2000cm³になるようにしましょう。

例

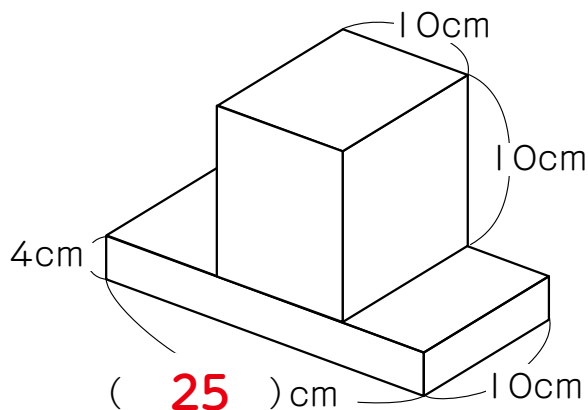
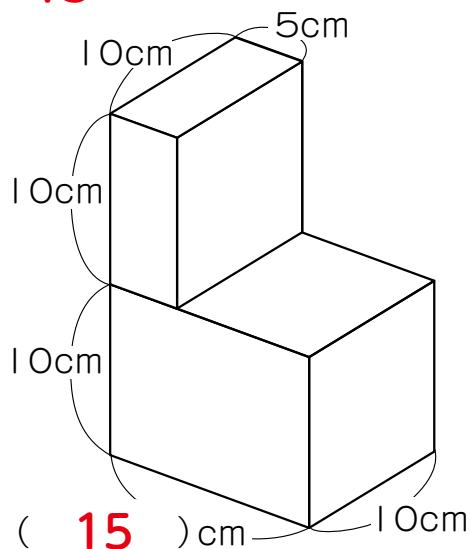
	たて		横		高さ	
①	10	×	10	×	20	=2000
			(20)		(10)	
②	20	×	20	×	5	=2000
	(5)		20		(20)	
③	4	×	5	×	100	=2000
	(5)		(4)			



- ② 体積が2000cm³の形を作ります。()にあてはまる数を書きましょう。

① $2000 - (10 \times 5 \times 10)$
 $= 1500$
 $1500 \div (10 \times 10)$
 $= 15$

② $2000 - (10 \times 10 \times 10)$
 $= 1000$
 $1000 \div (10 \times 4)$
 $= 25$



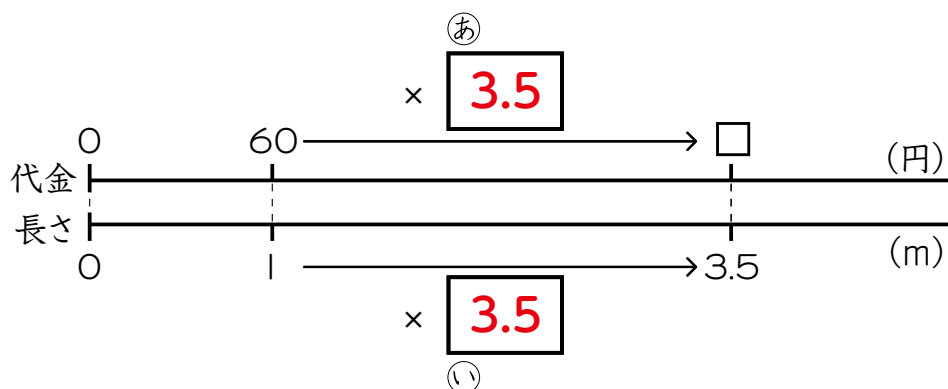
4 小数のかけ算 ①

名前

ねらい 整数×小数の意味を理解する。

- ① 1mのねだんが60円のリボンがあります。
このリボン3.5mの代金は何円でしょうか。

- ① 下の数直線で、㊤と㊦にあてはまる数を書きましょう。

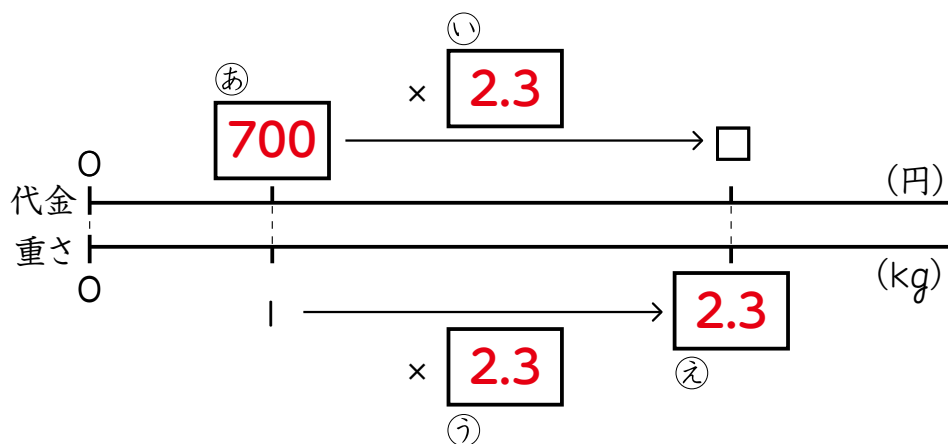


- ② 数直線をもとにして、3.5mの代金を求める式を書きましょう。

〈式〉 60×3.5

- ② 1gで700円のお米が売っています。
このお米2.3gの代金は何円でしょうか。

- ① 下の数直線で、㊤・㊦・㊨・㊩にあてはまる数を書きましょう。



- ② 数直線をもとにして、2.3gの代金を求める式を書きましょう。

〈式〉 700×2.3

4 小数のかけ算 ②

名前

ねらい 整数×小数の乗法の計算の仕方を理解する。

I 1m70円のリボンを2.5m買います。代金は何円になるでしょうか。

① 2.5mの代金を求める式を書きましょう。

〈式〉 70×2.5

② たかしさんとあやのさんが、代金の求め方を説明しています。

2人の説明と同じ図と式を選んで、記号を（ ）の中に書きましょう。

たかし：2.5mは0.1mの25倍だから、

0.1mの代金を25倍すると2.5mの代金を求めることができます。

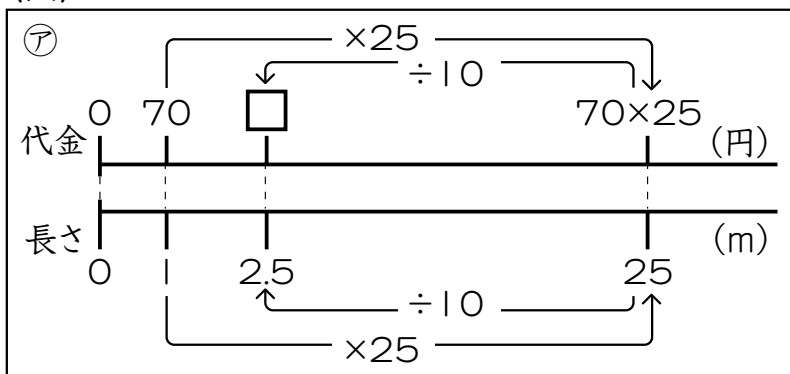
図（ $\textcircled{\text{イ}}$ ） 式（ $\textcircled{\text{あ}}$ ）

あやの：25mの代金は70円の25倍で求められるので、

まずは25mの代金を求めて、

2.5mの代金は25mの代金の $\frac{1}{10}$ にすれば求めることができます。図（ $\textcircled{\text{ア}}$ ） 式（ $\textcircled{\text{い}}$ ）

〈図〉



〈式〉

②

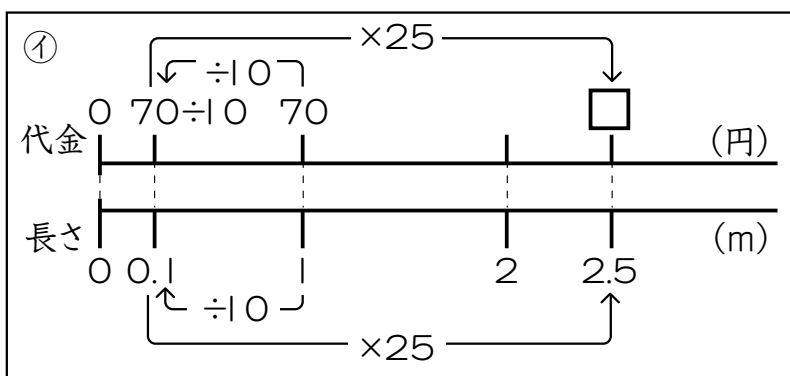
$$70 \times 2.5 = 175$$

$$\downarrow \div 10 \quad \downarrow \times 10$$

$$7 \times 25 = 175$$

0.1mの代金 25倍

等しい



②

$$70 \times 2.5 = 175$$

$$\downarrow \times 10$$

$$70 \times 25 = 1750$$

25mの代金

$\div 10$

4 小数のかけ算 ③

名前

ねらい 小数×純小数の計算の仕方を理解する。

- 1 mの重さが80gのはり金があります。
このはり金0.7mの重さは何gでしょうか。

- ① 0.7mの重さを求める式を書きましょう。

〈式〉 80×0.7

- ② たかしさんとあやのさんが、重さの求め方を説明しています。

たかし：0.7mの重さは、0.1mの重さの7倍です。

あやの：0.7mの重さは、7mの重さの $\frac{1}{10}$ です。

次の式は、どちらの考え方でしょうか。

() の中に名前を書きましょう。

㊦ $(80 \div 10) \times 7 = 56$ (たかし)

㊩ $80 \times 0.7 = 56$
 $\downarrow \times 10 \quad \uparrow \div 10$
 $80 \times 7 = 560$ (あやの)

- 1 mの重さが180gのはり金があります。
このはり金0.7mの重さは何gでしょうか。

〈式〉 $180 \times 0.7 = 126$

答え 126g

4 小数のかけ算 ④

名前

ねらい 小数×小数の乗法の計算の仕方を理解し、筆算ができる。

① 小数のかけ算の筆算のし方を考えましょう。

□の中にあてはまる数を書きましょう。

$$\begin{array}{r}
 5.3 \\
 \times 4.6 \\
 \hline
 318 \\
 212 \\
 \hline
 24.38
 \end{array}
 \xrightarrow[\text{100 倍}]{\begin{array}{l} \text{10 倍} \\ \text{10 倍} \end{array}}
 \begin{array}{r}
 53 \\
 \times 46 \\
 \hline
 318 \\
 212 \\
 \hline
 2438
 \end{array}$$

② 次の計算をしましょう。

$$\begin{array}{r}
 ① \quad 7.3 \\
 \times 1.6 \\
 \hline
 438 \\
 73 \\
 \hline
 11.68
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 ② \quad 2.8 \\
 \times 2.4 \\
 \hline
 11.2 \\
 56 \\
 \hline
 6.72
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 ③ \quad 6.3 \\
 \times 3.9 \\
 \hline
 567 \\
 189 \\
 \hline
 24.57
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 ④ \quad 5.3 \\
 \times 0.4 \\
 \hline
 2.12
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 ⑤ \quad 3.8 \\
 \times 0.7 \\
 \hline
 2.66
 \end{array}$$

$$\begin{array}{r}
 ⑥ \quad 0.6 \\
 \times 4.3 \\
 \hline
 2.58
 \end{array}$$

4 小数のかけ算 ⑤

名前

ねらい 被乗数が1/100の位までの小数の乗法の計算の仕方を理解し、筆算の仕方をまとめる。

① 小数のかけ算の筆算のし方を考えましょう。

□の中にあてはまる数を書きましょう。

$\begin{array}{r} 2.58 \\ \times 3.4 \\ \hline 1032 \\ 774 \\ \hline \end{array}$	$\xrightarrow{\boxed{100} \text{ 倍}}$ $\xrightarrow{\boxed{10} \text{ 倍}}$ $\xleftarrow{\boxed{1000}}$	$\begin{array}{r} 258 \\ \times 34 \\ \hline 1032 \\ 774 \\ \hline 8772 \end{array}$
$\boxed{8.772}$		

② 次の計算をしましょう。

①

$$\begin{array}{r} 2.43 \\ \times 5.3 \\ \hline 729 \\ 1215 \\ \hline 12.879 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r} 8.06 \\ \times 4.7 \\ \hline 5642 \\ 3224 \\ \hline 37.882 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r} 4.56 \\ \times 27.7 \\ \hline 3192 \\ 3192 \\ 912 \\ \hline 126.312 \end{array}$$

④

$$\begin{array}{r} 0.63 \\ \times 7.2 \\ \hline 126 \\ 441 \\ \hline 4.536 \end{array}$$

⑤

$$\begin{array}{r} 10.6 \\ \times 4.43 \\ \hline 318 \\ 424 \\ 424 \\ \hline 46.958 \end{array}$$

⑥

$$\begin{array}{r} 0.03 \\ \times 0.2 \\ \hline 0.006 \end{array}$$

4 小数のかけ算 ⑥

名前

ねらい 乗数が1/100の位までの小数の乗法の計算の仕方を理解し、筆算の仕方をまとめる。

- ① 小数のかけ算の筆算のし方を説明します。
 () の中にあてはまる言葉を書きましょう。

$$\begin{array}{r}
 0.\textcircled{5}\textcircled{8}\cdots 2\text{けた} \\
 \times 0.\textcircled{1}\textcircled{4}\cdots 2\text{けた} \\
 \hline
 232 \\
 58 \\
 \hline
 0.\textcircled{0}\textcircled{8}\textcircled{1}\textcircled{2}\cdots 4\text{けた}
 \end{array}$$

- ① 小数点がないものとして(**整数**)の
 かけ算とみて計算する。
- ② 横の小数部分のけた数が、
 かけられる数とかける数の小数部分の
 けた数の(**和**)になるように、
 小数点をうつ。

- ② 次の計算をしましょう。

①

$$\begin{array}{r}
 4.58 \\
 \times 0.5 \\
 \hline
 2.29\cancel{0}
 \end{array}$$

②

$$\begin{array}{r}
 4.75 \\
 \times 1.08 \\
 \hline
 3800 \\
 4750 \\
 \hline
 5.13\cancel{0}\cancel{0}
 \end{array}$$

③

$$\begin{array}{r}
 0.75 \\
 \times 0.04 \\
 \hline
 0.03\cancel{0}\cancel{0}
 \end{array}$$

- ③ 下の筆算のまちがいを直して、正しい筆算を書きましょう。

$$\begin{array}{r}
 7.6 \\
 \times 3.5 \\
 \hline
 380 \\
 228 \\
 \hline
 2.66\cancel{0}
 \end{array}$$

〈正しい筆算〉

$$\begin{array}{r}
 7.6 \\
 \times 3.5 \\
 \hline
 380 \\
 228 \\
 \hline
 26.6\cancel{0}
 \end{array}$$

4 小数のかけ算 ⑦

名前

ねらい

乗数と積の大きさの関係を理解する。

① 次の（ ）の中にあてはまる言葉を書きましょう。

- ① かけ算では1より小さい数をかけると、
積は、かけられる数より（ **小さく** ）なります。
- ② かけ算では1より大きい数をかけると、
積は、かけられる数より（ **大きく** ）なります。

② 次の（ ）の中にあてはまる不等号を書きましょう。

- ① 500×4.6 （ **>** ） 500
- ② 500×0.08 （ **<** ） 500

③ 次の式で、積がかけられる数より小さくなるのはどれでしょうか。
すべて選び、記号で答えましょう。

- ア 3.8×2.9 イ 6.5×0.2 ウ 0.9×1.1
エ 0.8×1.06 オ 52×0.46 カ 0.8×0.9

（ **イ、オ、カ** ）

4 小数のかけ算 ⑧

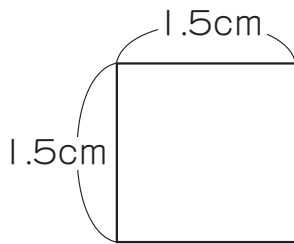
名前

ねらい

辺の長さが小数でも、面積や体積の公式が適用できることを理解する。

Ⅰ 次の図形の面積を求めましょう。

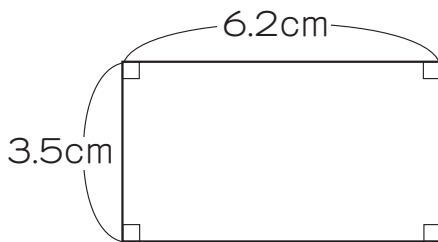
① 一辺の長さが1.5cmの正方形の面積。



$$\langle \text{式} \rangle \quad 1.5 \times 1.5 = 2.25$$

$$\text{答え} \quad 2.25\text{cm}^2$$

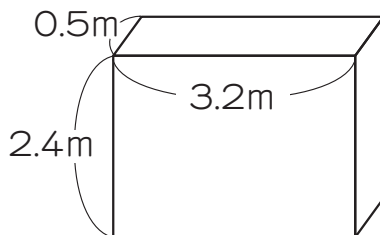
② たて3.5cm、横6.2cmの長方形の面積。



$$\langle \text{式} \rangle \quad 3.5 \times 6.2 = 21.7$$

$$\text{答え} \quad 21.7\text{cm}^2$$

② 次の直方体の体積を求めましょう。



$$\langle \text{式} \rangle \quad 0.5 \times 3.2 \times 2.4 = 3.84$$

$$\text{答え} \quad 3.84\text{m}^3$$

4 小数のかけ算 ⑨

名前

ねらい

小数の場合でも、交換法則、結合法則、分配法則が成り立つことを理解する。

① 次の式は計算のきまりについて書いているものです。

計算のきまりが成り立つように、

□にあてはまる▲や■、●の記号や式を書きましょう。

① $\bullet \times \blacktriangle = \blacktriangle \times \square$

② $(\bullet \times \blacktriangle) \times \blacksquare = \square \times (\blacktriangle \times \blacksquare)$

③ $(\bullet + \blacktriangle) \times \blacksquare = \square + \square$

④ $(\square - \blacktriangle) \times \blacksquare = \bullet \times \blacksquare - \blacktriangle \times \blacksquare$

② 次の計算をくふうしてやりましょう。と中の式も書きましょう。

① $3 \times 0.6 \times 0.5 = 3 \times (0.6 \times 0.5)$
 $= 3 \times 0.3$
 $= 0.9$

② $1.8 \times 4.6 + 1.8 \times 5.4 = 1.8 \times (4.6 + 5.4)$
 $= 1.8 \times 10$
 $= 18$

③ $6.7 \times 5.6 - 4.2 \times 5.6 = (6.7 - 4.2) \times 5.6$
 $= 2.5 \times 5.6$
 $= 14$

5 合同と三角形、四角形 ①

名前

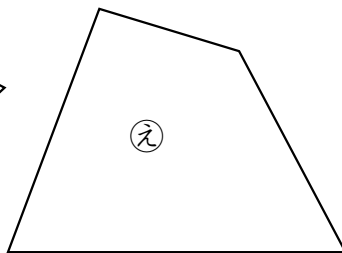
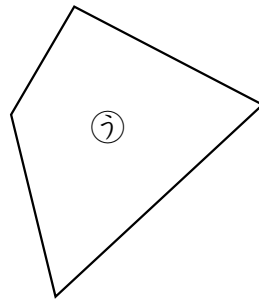
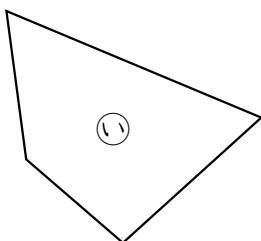
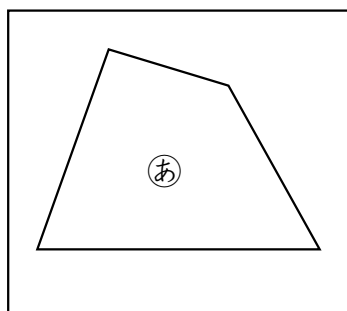
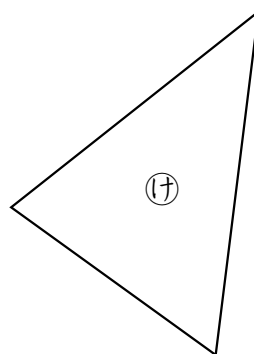
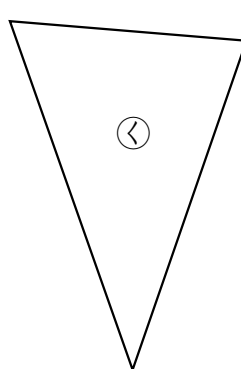
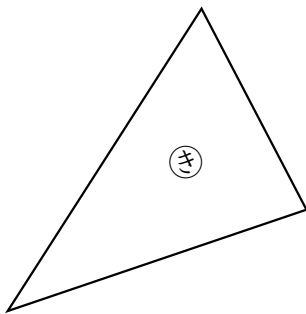
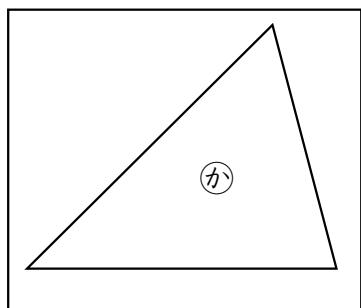
ねらい 合同の意味を理解する。

① () の中に言葉を書きましょう。

2つの図形がきちんと重なるとき、
これらの図形は(**合同**)であるといいます。

② 次の㉠と㉡の図形をうす紙に写し取って重ねて、㉠と㉡の図形と
ごうどう合同な図形を見つけましょう。

() の中に記号を書きましょう。

㉠の図形と合同な図形(**㉥**)㉡の図形と合同な図形(**㉨**)

5 合同と三角形、四角形 ②

名前

ねらい 合同な図形の、対応する頂点、辺、角について理解する。

① () の中に言葉を書きましょう。

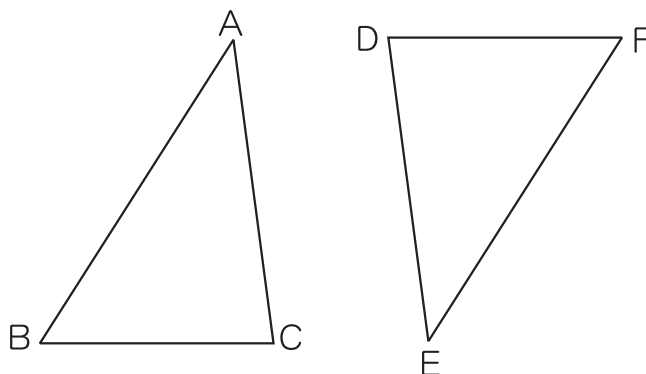
① 合同な図形では、(対応) する辺の長さは

(等しく) なっています。

また対応する (角) の大きさも (等しく) なっています。

② 下の2つの三角形は合同です。

対応する①頂点、②辺、③角を書きましょう。

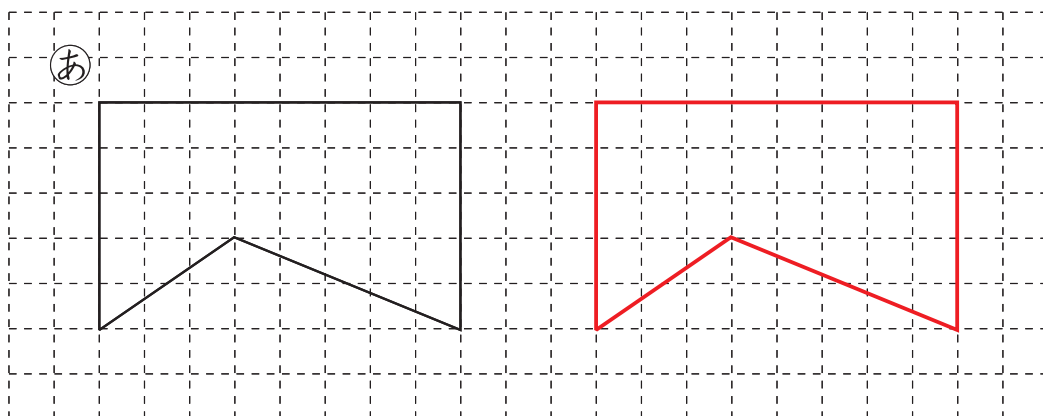


① 頂点 (頂点Aと頂点E、頂点Bと頂点F、頂点Cと頂点D)

② 辺 (辺ABと辺EF、
辺BCと辺FD、
辺CAと辺DE)

③ 角 (角Aと角E、角Bと角F、角Cと角D)

③ 下の方眼に、㊦と合同な図形をかきましょう。



5 合同と三角形、四角形 ③

名前

ねらい

四辺形に対角線をかいたときにできる三角形について合同の観点から調べ、平面図形についての理解を深める。

① 右のひし形に2本の対角線をかきました。

次の①～③の図形と合同な図形をすべて記号で書きましょう。

① 三角形ABCと合同な三角形

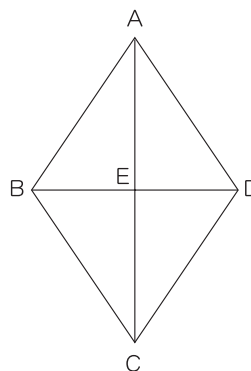
(**三角形CDA**) 三角形ADC

② 三角形ABDと合同な三角形

(**三角形CDB**) 三角形BDC

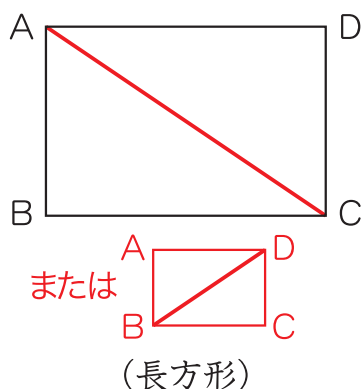
③ 三角形ABEと合同な三角形

(**三角形ADE、三角形CDE、三角形CBE**)
(EDA) (EDC) (EBC)



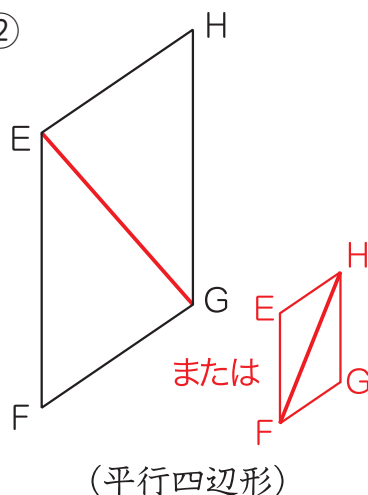
② 次の四角形に1本の対角線をかいて、できた2つの三角形が合同かどうか、対応する辺の長さや角の大きさを調べて、合同になる図形をすべて記号で書きましょう。

①



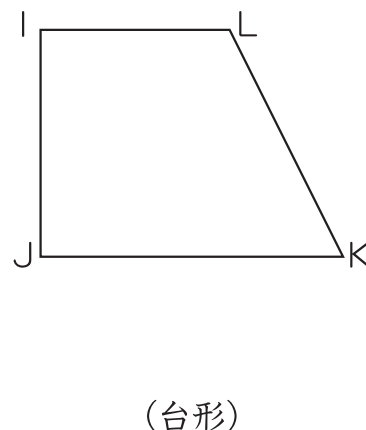
(対角線ACの場合)
三角形ABCと三角形CDA
(対角線BDの場合)
三角形ABDと三角形CDB

②



(対角線EGの場合)
三角形FGEと三角形HEG
(対角線FHの場合)
三角形EFHと三角形GHF

③



合同な三角形は なし。

5 合同と三角形、四角形 ④

名前

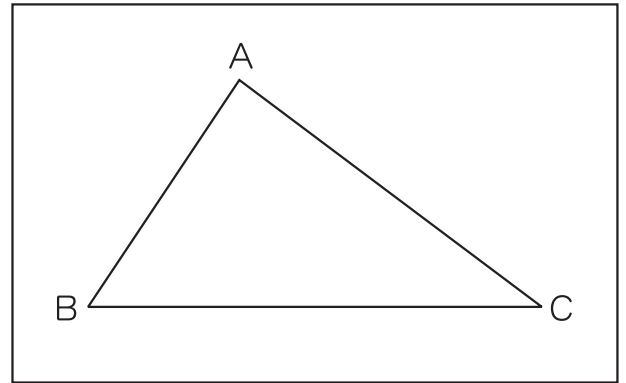
ねらい 合同な三角形の作図に必要な要素を考え、作図することができる。

Ⅰ 右の三角形ABCと合同な三角形の
かき方を考えましょう。

◆辺BCに対応する辺をかきました。

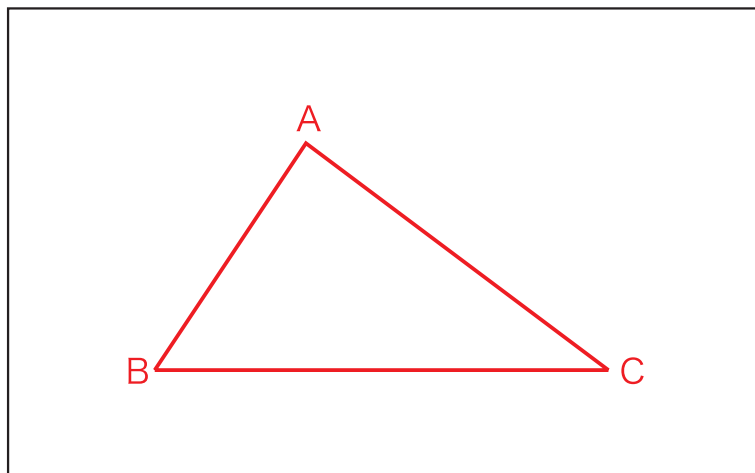
頂点Aに対応する頂点の位置を
決めるには、どんなことを調べれば
よいでしょうか。

次の①～⑤の調べ方で頂点の位置が
決まるものには○、決まらないものには
×を（ ）の中に書きましょう。



- ① (○) 辺ABと辺ACの長さを調べる。
 ② (○) 角Bの大きさと辺ABの長さを調べる。
 ③ (○) 角Bと角Cの大きさを調べる。
 ④ (×) 辺ABの長さを調べる。
 ⑤ (○) 辺ABの長さと角Cの大きさを調べる。

Ⅱ 三角形ABCと合同な三角形を、^{じょうぎ}定規、コンパス、分度器を
使ってかきましょう。



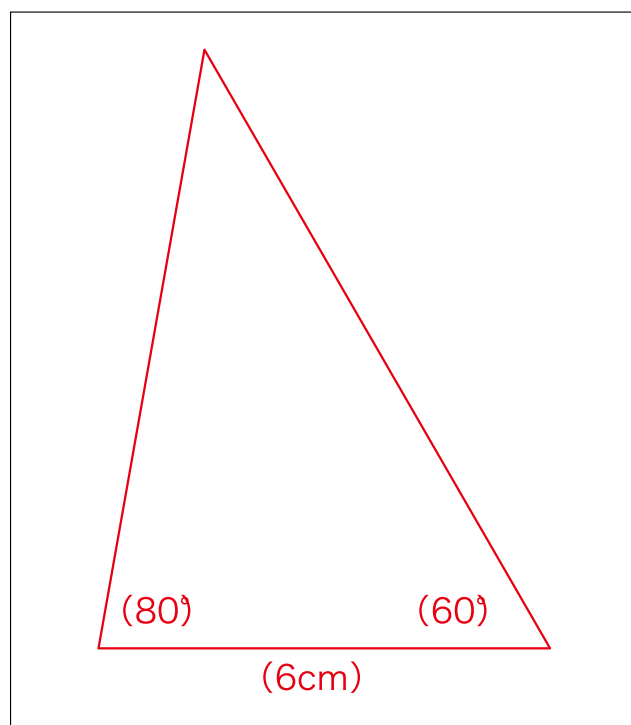
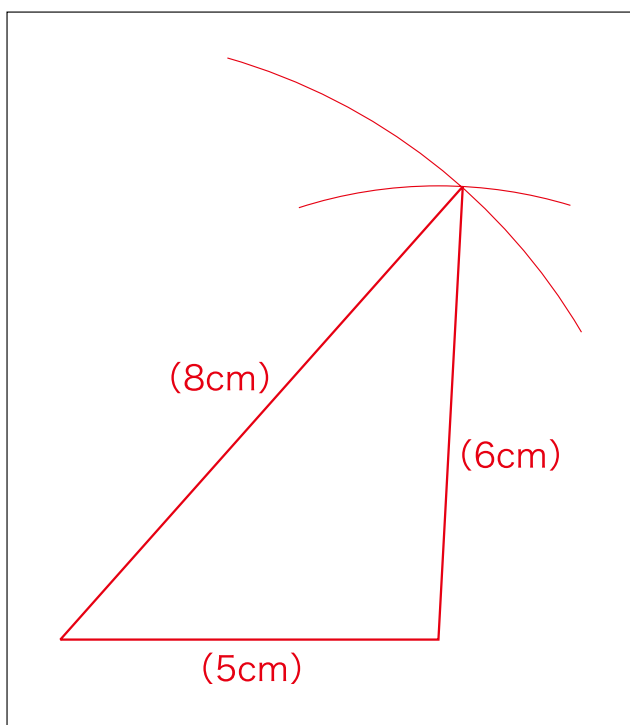
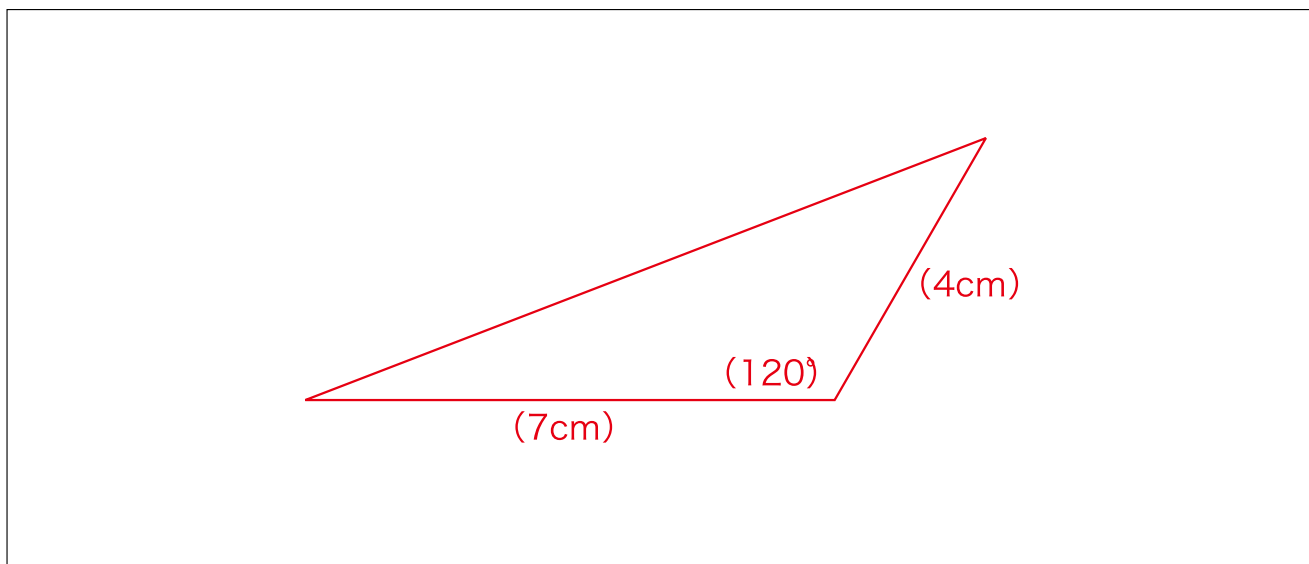
5 合同と三角形、四角形 ⑤

名前

ねらい 合同な三角形を作図することができる。

Ⅰ 辺の長さや角の大きさが、次のような三角形をかきましょう。

① 3つの辺5cm、6cm、8cm

② 1つの辺6cm、
その両はしの角 80° 、 60° ③ 2つの辺7cm、4cm、その間の角 120° 

5 合同と三角形、四角形 ⑥

名前

ねらい 合同な三角形の作図ができる要素について理解を深める。

1 下の（ ）にあてはまる言葉を、□にはあてはまる数を書きましょう。

ごうどう

合同な三角形は、三角形の3つの辺と3つの角の大きさのうち、

下の㉔㉕㉖のどれかが分かれば、かくことができます。

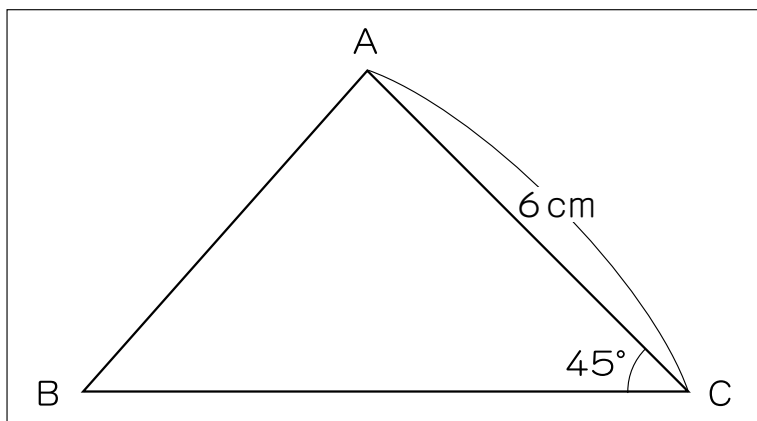
㉔ 3つの（ 辺 ）辺の長さ。

㉕ 2つの辺の長さと、その間の□ 1 つの（ 角 ）の大きさ。

㉖ 1つの辺の長さと、その両はしの□ 2 つの角の大きさ。

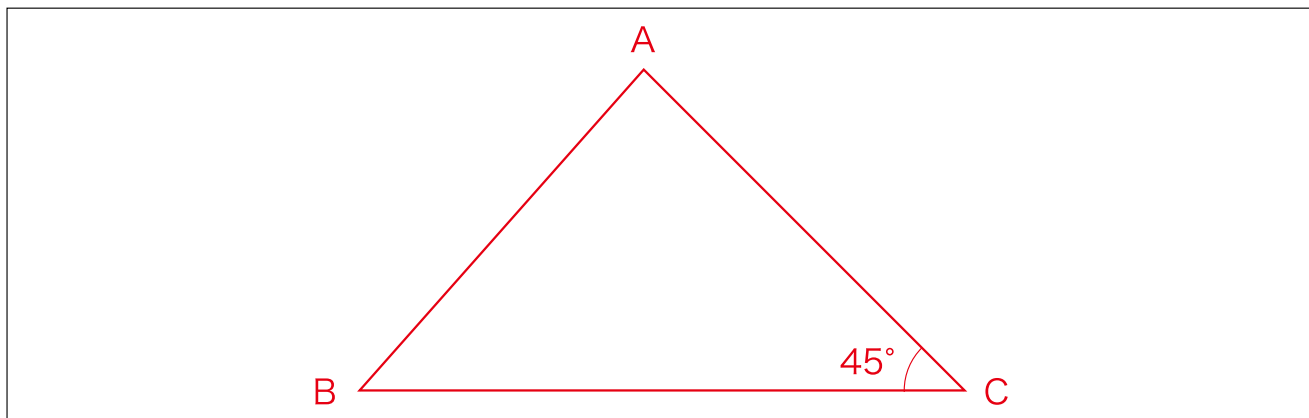
2 下の三角形と合同な三角形をかきます。

① 辺ACの長さと角Cの大きさと、あと、どこの辺の長さや角の大きさが分かればかけますか。



（ 辺BCの長さ
または
角Aの大きさ ）

② 合同な三角形をかきましょう。

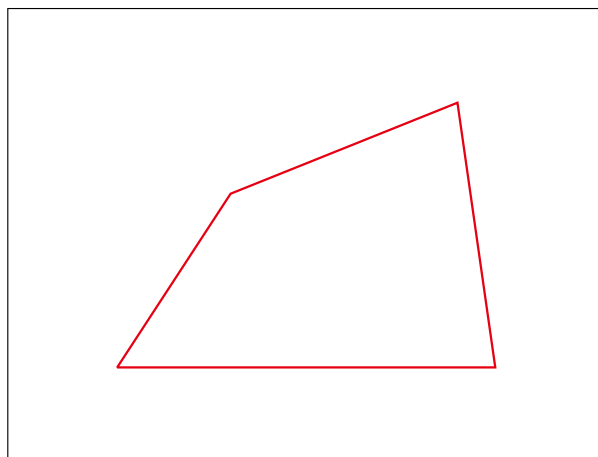
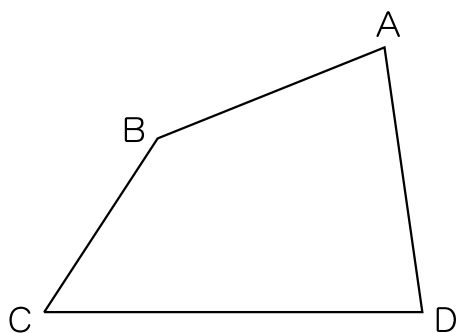


5 合同と三角形、四角形 ⑦

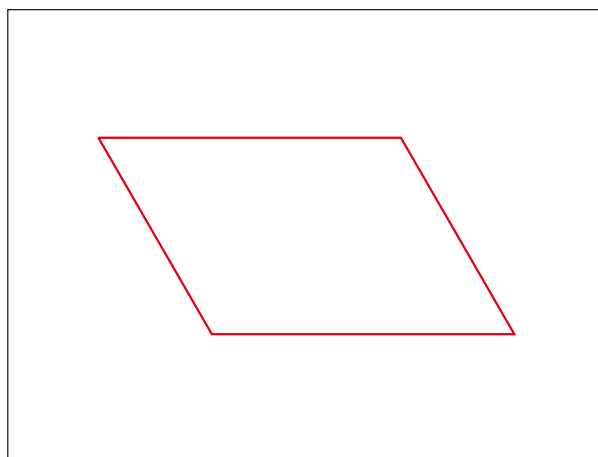
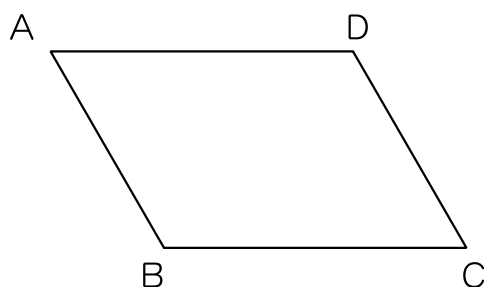
名前

ねらい 合同な四角形を作図することができる。

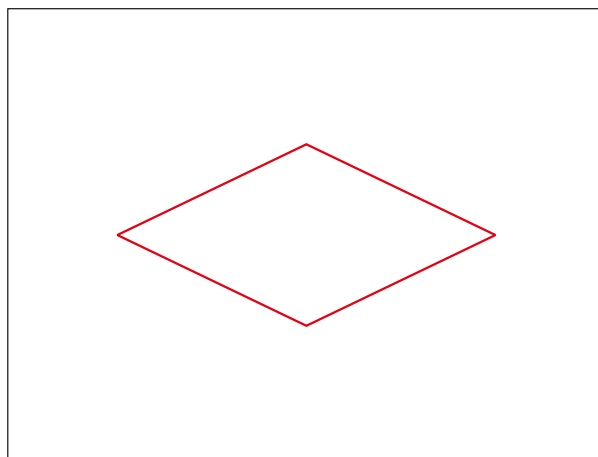
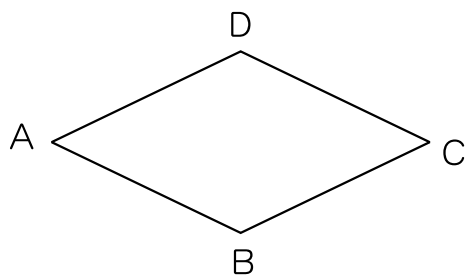
Ⅰ 下の四角形ABCDと合同な四角形をかきましょう。



Ⅱ 下の平行四辺形ABCDと合同な平行四辺形をかきましょう。



Ⅲ 下のひし形ABCDと合同なひし形をかきましょう。

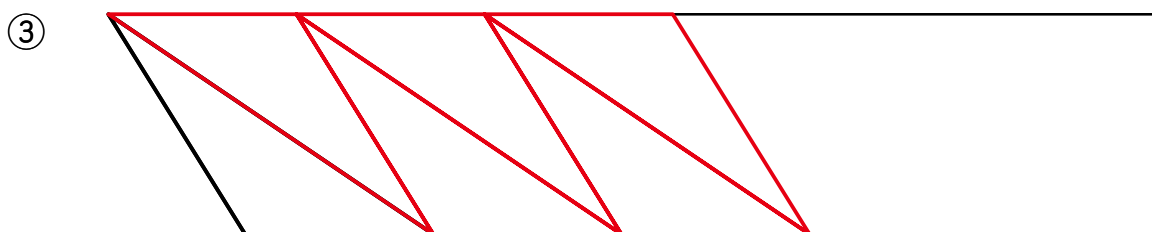
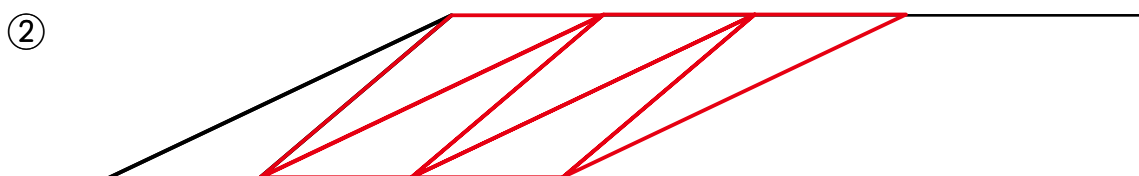
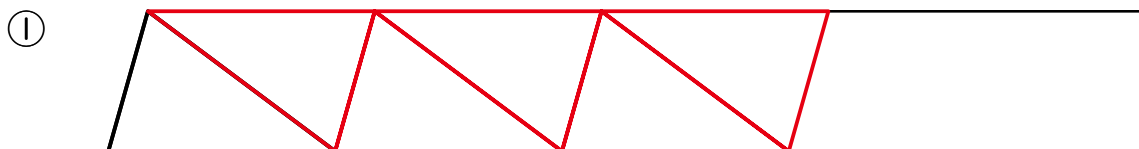


5 合同と三角形、四角形 ⑧

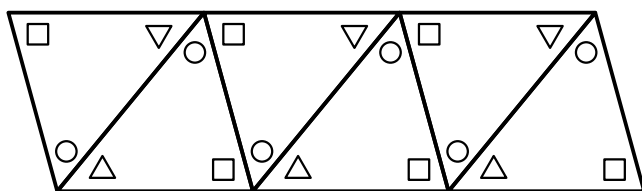
名前

ねらい 三角形をまっすぐに並べたり、3つの角の大きさの和を調べたり、三角形の内角の和を帰納的に考えたりする。

- ① 下の①、②、③の三角形はまっすぐにならべられるでしょうか。
コンパスと定規を使って、合同な三角形を5つずつかいて調べましょう。



- ② 同じ三角形を下のように6枚^{まい}ならべました。
() の中にあてはまる記号を書きましょう。



三角形の3つの角の
(□) と (○) と (△) を
あわせると一直線になります。

5 合同と三角形、四角形 ⑨

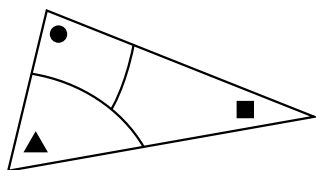
名前

ねらい 三角形の角の大きさの和が 180° であることを説明する。

Ⅰ 三角形の角の大きさの和について調べます。

① 次の2つの三角形の角の大きさの和は、それぞれ何度になるでしょうか。

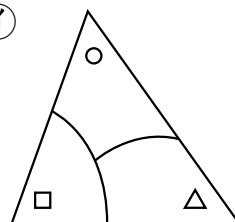
ア



$$\bullet + \blacktriangle + \blacksquare$$

$$(\quad 180^\circ \quad)$$

イ



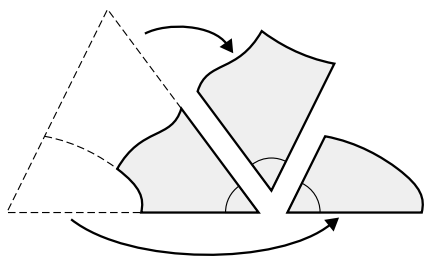
$$\bigcirc + \triangle + \square$$

$$(\quad 180^\circ \quad)$$

② 下のように三角形の3つの角を一か所に集めました。

() にあてはまる言葉、□にはあてはまる数を書きましょう。

() や□には、同じ言葉や数字が入ります。

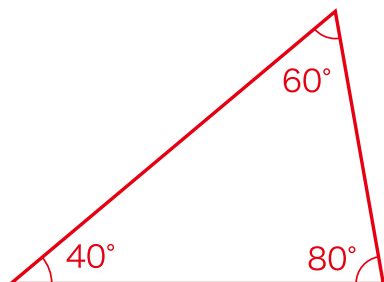


3つの角を合わせてみると、(一直線) になりました。(一直線) は角度にすると、 180° です。

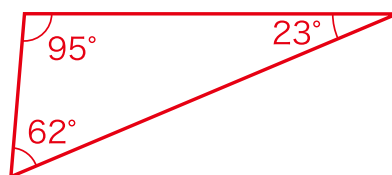
だから、三角形の角の和は、 180° といえます。

③ 三角形を2つかいて、どの三角形も3つの角の和が 180° であることを調べましょう。

〈例〉



$$40^\circ + 60^\circ + 80^\circ = 180^\circ$$



$$95^\circ + 62^\circ + 23^\circ = 180^\circ$$

5 合同と三角形、四角形 ⑩

名前

ねらい 四角形の4つの角の大きさの和が 360° であることを演繹的に考えて見いだすことができる。

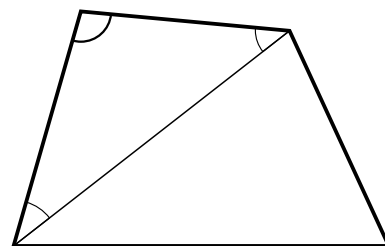
- ① 四角形の4つの角の大きさについて、たくみさんが説明しています。
() に言葉を、□には数を入れて、説明を完成させましょう。

私は、四角形の4つの角の大きさの和について調べました。

まずはじめに、四角形の (**対角線**) を

1本かいて、四角形を □ **2** つの

三角形に分けました。



三角形の3つの角の大きさの和は、 □ **180°** です。

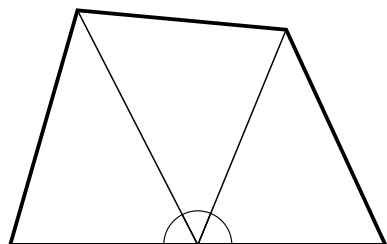
四角形の4つの角の大きさの和は、

三角形 □ **2** つ分の角の大きさの和と (**等しい**) ので、

□ **180** × □ **2** = □ **360** となり、

四角形の4つの角の大きさの和は、 □ **360°** といえます。

- ② 四角形の角の大きさの和について、
下のような分け方による説明の式として、正しい記号を○で囲みましょう。



ア : 180×3

イ : $180 \times 3 - 180$

ウ : 180×2

5 合同と三角形、四角形 ⑪

名前

ねらい 多角形の意味を知り、五角形、六角形、……の内角の和の求め方を説明することができる。

Ⅰ 右のような六角形の6つの角の和を求めましょう。

- ① 右の六角形を三角形4つに分けましょう。
 ② 三角形の3つの角の和は何度でしょうか。

(180°)

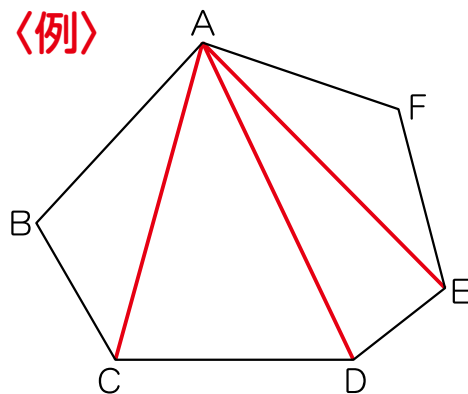
- ③ 三角形を4つ合わせた角の和は何度でしょうか。

〈式〉 $180 \times 4 = 720$

(720°)

- ④ 六角形の6つの角の大きさを合わせると、何度になるでしょうか。

(720°)



Ⅱ 下の表は、多角形の1つの頂点^{ちやうてん}から対角線をかいてできる三角形の数と、角の大きさの和をまとめたものです。

表のあいているところにあてはまる言葉や数を書いて、表を完成させましょう。

形	三角形	四角形	五角形	六角形	七角形
三角形の数	1	2	3	4	5
角の大きさの和	180°	360°	540°	720°	900°

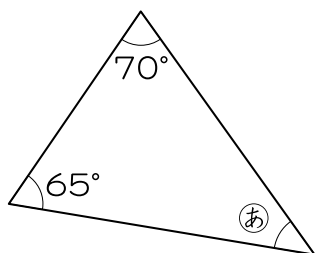
5 合同と三角形、四角形 ⑫

名前

ねらい 三角形の内角の和の性質をもとに、未知の角の大きさを求めることができる。

Ⅰ 次の㉠～㉦の角度を求めましょう。

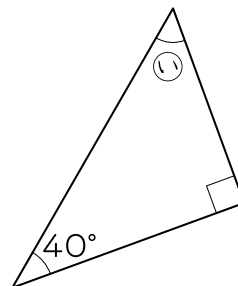
①



$$\langle \text{式} \rangle 180 - (70 + 65) = 45$$

$$\textcircled{\text{あ}} (45^\circ)$$

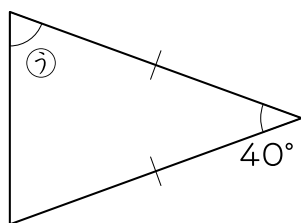
②



$$\langle \text{式} \rangle 180 - (90 + 40) = 50$$

$$\textcircled{\text{い}} (50^\circ)$$

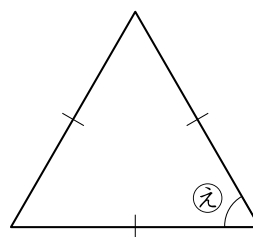
③



$$\langle \text{式} \rangle (180 - 40) \div 2 = 70$$

$$\textcircled{\text{う}} (70^\circ)$$

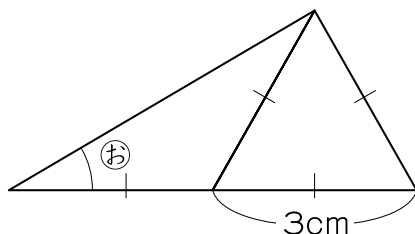
④



$$\langle \text{式} \rangle 180 \div 3 = 60$$

$$\textcircled{\text{え}} (60^\circ)$$

⑤

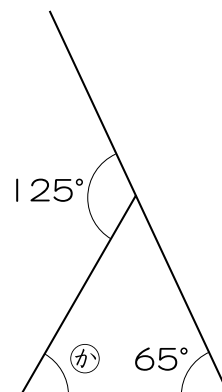


$$\langle \text{式} \rangle 180 - 60 = 120$$

$$(180 - 120) \div 2 = 30$$

$$\textcircled{\text{お}} (30^\circ)$$

⑥



$$\langle \text{式} \rangle 180 - 125 = 55$$

$$180 - (55 + 65) = 60$$

$$\textcircled{\text{か}} (70^\circ)$$

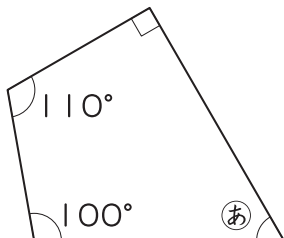
5 合同と三角形、四角形 ⑬

名前

ねらい 四角形の内角の和の性質をもとに未知の角の大きさを求めることができる。

Ⅰ 次の㉠～㉣の角度を求めましょう。

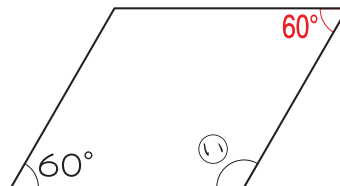
①



$$\begin{aligned} \langle \text{式} \rangle \quad & 360 - (90 + 100 + 110) \\ & = 60 \end{aligned}$$

$$\textcircled{\text{あ}} \left(60^\circ \right)$$

②

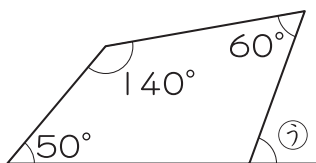


(平行四辺形)

$$\begin{aligned} \langle \text{式} \rangle \quad & 360 - (60 + 60) = 240 \\ & 240 \div 2 = 120 \end{aligned}$$

$$\textcircled{\text{い}} \left(120^\circ \right)$$

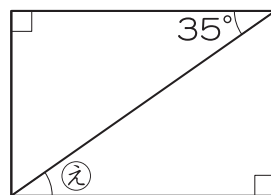
③



$$\begin{aligned} \langle \text{式} \rangle \quad & 360 - 250 = 110 \\ & 180 - 110 = 70 \end{aligned}$$

$$\textcircled{\text{う}} \left(70^\circ \right)$$

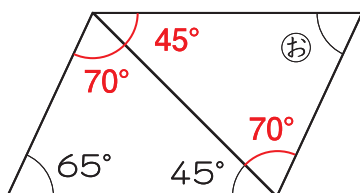
④



$$\begin{aligned} \langle \text{式} \rangle \quad & 180 - (35 + 90) = 55 \\ & 180 - (55 + 90) = 35 \end{aligned}$$

$$\textcircled{\text{え}} \left(35^\circ \right)$$

⑤

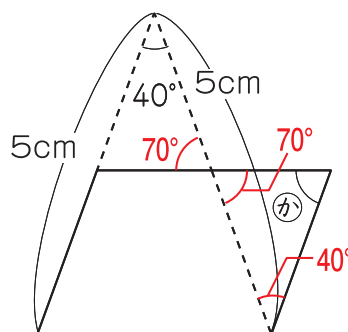


(平行四辺形)

$$\begin{aligned} \langle \text{式} \rangle \quad & 180 - (65 + 45) = 70 \\ & 180 - (70 + 45) = 65 \end{aligned}$$

$$\textcircled{\text{お}} \left(65^\circ \right)$$

⑥



(平行四辺形)

$$\langle \text{式} \rangle \quad (180 - 40) \div 2 = 70$$

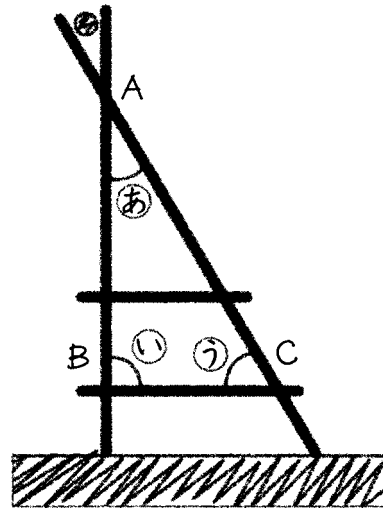
$$\textcircled{\text{か}} \left(70^\circ \right)$$

5 合同と三角形、四角形
(学んだことを使おう) ⑭

名前

ねらい 身の回りから三角形を見だし、その角の求め方を筋道立てて考え、説明することができる。

- Ⅰ たくやさんは、下のような遊具の⑥の角度を知りたいと思いました。
手がとどかなかったので、⑦の角度をはかったところ、 55° でした。



たくやさんは、あの角度の求め方について、下のように説明しています。
() にあてはまる言葉を、□にはあてはまる数を書きましょう。

三角形ABCは (**直角三角形**) とみられるので、

①の角度は **90°** です。

三角形の角の大きさの和は、 **180°** 。

⑥の角度を□ $^\circ$ とすると、□ $+90+55=180$ です。

だから、⑥の角度は、 $180-(90+55)$ で

35° と求められます。

6 小数のわり算 ①

名前

ねらい 整数÷小数の意味を理解する。

① 次の問題を読んで、() の中にあてはまる数を書きましょう。

2.4mの代金が60円のリボンがあります。
このリボン1mのねだんは何円でしょうか。

① 1mのねだんを求める式を書きましょう。

1mのねだん＝代金÷その長さ だから、

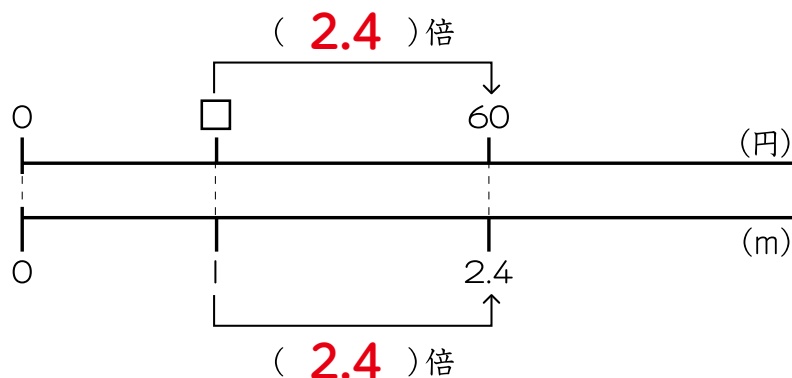
$$2\text{m} \text{ だったら } 60 \div 2 = \boxed{30}$$

$$3\text{m} \text{ だったら } 60 \div \boxed{3} = \boxed{20}$$

$$2.4\text{m} \text{ だったら } \boxed{60 \div 2.4}$$

② 1mのねだんを求めましょう。

長さが (2.4) 倍になると、代金も (2.4) 倍になるので



□ × 2.4 = 60 という式にできます。

□を求めるには、(60) ÷ (2.4) とわり算をします。

③ リボンの長さが小数で表されていても、1mのねだんを求めるには、
整数のときと同じように、(わり算) の式に表します。

④ リボン1mのねだんは (25) 円です。

6 小数のわり算 ②

名前

ねらい 整数÷小数の計算の仕方を理解する。

- Ⅰ 1.2mの代金が96円のリボンがあります。
このリボン1mのねだんは何円でしょうか。

- ① 1mのねだんを求める式を書きましょう。

$$\left(\quad 96 \div 1.2 \quad \right)$$

- ② せらんさんとたくとさんが代金の求め方を説明しています。
2人の説明と同じ図と式を選んで、記号を()の中に書きましょう。

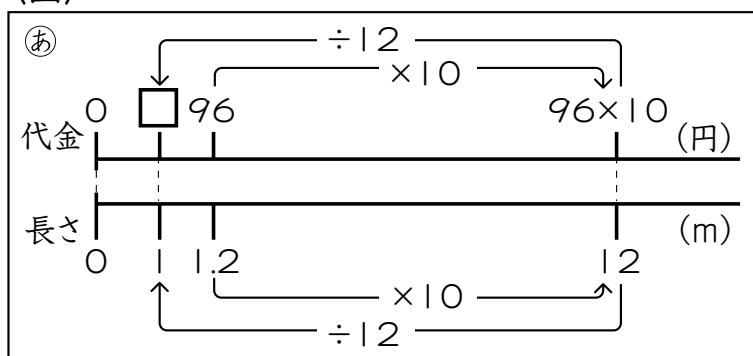
せらん：1mのねだんは、0.1mの代金の10倍になるので、
まずは0.1mの代金を求めてから10倍して、
1mのねだんを求めます。

図 (い) 式 (ア)

たくと：12mの代金をもとにしても1mのねだんは変わらないので、
リボンの長さで代金を10倍して、1mのねだんを求めます。

図 (あ) 式 (イ)

〈図〉



〈式〉

⑦

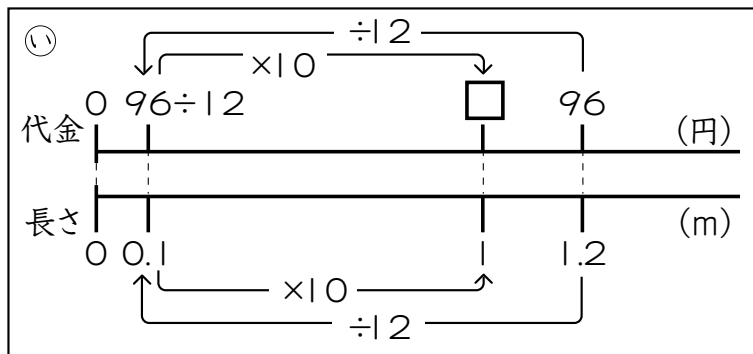
$$96 \div 1.2 = 80$$

$$\downarrow \times 10$$

$$96 \times 12 = \underline{80}$$

0.1mの代金

①



①

$$96 \div 1.2 = 80$$

$$\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10$$

$$\underline{960} \div \underline{12} = 80$$

12mの代金 12m

等しい

6 小数のわり算 ③

名前

ねらい 整数÷純小数の計算の仕方を理解する。

- ① 0.8mの重さが64gのはり金があります。
このはり金1mの重さは何gでしょうか。

① 1mの重さを求める式を書きましょう。

式 ($64 \div 0.8$)

② たかしさんとあやのさんが、重さの求め方を説明しています。

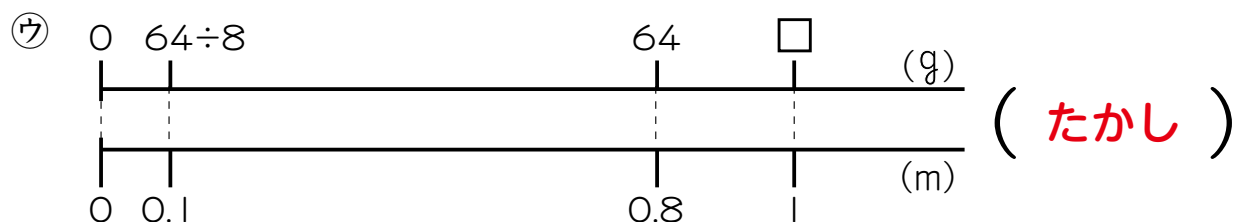
たかし：1mの重さは、0.1mの重さの10倍です。

あやの：8mの重さから求めても、1mの重さは変わりません。

次の式や図は、だれの考え方でしょうか。()に名前を書きましょう。

ア $64 \div 0.8 = 80$
 $\downarrow \times 10 \quad \downarrow \times 10$
 $640 \div 8 = 80$ } 等しい (あやの)

イ $(64 \div 8) \times 10 = 80$ (たかし)



- ② 0.6mの代金が90円のはり金があります。
このはり金1mのねだんは何円でしょうか。

〈式〉 $90 \div 0.6 = 150$

答え 150円

6 小数のわり算 ④

名前

ねらい 小数÷小数の除法の計算を理解し、筆算ができる。

① $4.8 \div 1.5$ の筆算のしかたについて説明した文です。

() にあてはまる言葉を、□にはあてはまる数を書きましょう。

① $4.8 \div 1.5$ を筆算の形に書く。② わる数を(**整数**)にするために、□ **10** 倍する。

商が変わらないように、

わられる数も □ **10** 倍する。すると、小数点が1けた(**右**)へ移る。

③ あとはそのまま計算をして商を求める。

$$\begin{array}{r}
 1.5 \overline{)4.8} \\
 \downarrow \\
 1.5 \overline{)4.8} \\
 \downarrow \\
 1.5 \overline{)4.8} \\
 \underline{45} \\
 30 \\
 \underline{30} \\
 0
 \end{array}$$

② 次の計算を筆算でしましょう。

① $8.5 \div 3.4$

$$\begin{array}{r}
 2.5 \\
 3.4 \overline{)8.5} \\
 \underline{68} \\
 170 \\
 \underline{170} \\
 0
 \end{array}$$

② $8.7 \div 0.6$

$$\begin{array}{r}
 14.5 \\
 0.6 \overline{)8.7} \\
 \underline{6} \\
 27 \\
 \underline{24} \\
 30 \\
 \underline{30} \\
 0
 \end{array}$$

③ $34.8 \div 0.8$

$$\begin{array}{r}
 43.5 \\
 0.8 \overline{)34.8} \\
 \underline{32} \\
 28 \\
 \underline{24} \\
 40 \\
 \underline{40} \\
 0
 \end{array}$$

6 小数のわり算 ⑤

名前

ねらい

被除数が1/100の位までの除法の計算や、商の一の位が0になる場合の除法の計算の仕方を理解する。

□ 次の計算を筆算でしましょう。

① $9.86 \div 2.9$

$$\begin{array}{r}
 3.4 \\
 2.9 \overline{) 9.8.6} \\
 \underline{87} \\
 116 \\
 \underline{116} \\
 0
 \end{array}$$

② $17.64 \div 4.9$

$$\begin{array}{r}
 3.6 \\
 4.9 \overline{) 17.6.4} \\
 \underline{147} \\
 294 \\
 \underline{294} \\
 0
 \end{array}$$

③ $6.24 \div 9.6$

$$\begin{array}{r}
 0.65 \\
 9.6 \overline{) 6.2.4} \\
 \underline{576} \\
 480 \\
 \underline{480} \\
 0
 \end{array}$$

④ $0.54 \div 4.5$

$$\begin{array}{r}
 0.12 \\
 4.5 \overline{) 0.5.4} \\
 \underline{45} \\
 90 \\
 \underline{90} \\
 0
 \end{array}$$

⑤ $8.16 \div 9.6$

$$\begin{array}{r}
 0.85 \\
 9.6 \overline{) 8.1.6} \\
 \underline{768} \\
 480 \\
 \underline{480} \\
 0
 \end{array}$$

⑥ $0.09 \div 4.5$

$$\begin{array}{r}
 0.02 \\
 4.5 \overline{) 0.0.90} \\
 \underline{90} \\
 90 \\
 \underline{90} \\
 0
 \end{array}$$

6 小数のわり算 ⑥

名前

ねらい

除数が1/100の位までの除法の計算の仕方を理解し、小数の除法の筆算の仕方をまとめる。

I 次の計算を筆算でしましょう。

① $8.715 \div 4.98$

$$\begin{array}{r}
 1.75 \\
 4.98 \overline{) 8.715} \\
 \underline{4.98} \\
 3.735 \\
 \underline{3.486} \\
 2.490 \\
 \underline{2.490} \\
 0
 \end{array}$$

② $0.161 \div 0.35$

$$\begin{array}{r}
 0.46 \\
 0.35 \overline{) 0.161} \\
 \underline{1.40} \\
 210 \\
 \underline{210} \\
 0
 \end{array}$$

③ $6.86 \div 2.45$

$$\begin{array}{r}
 2.8 \\
 2.45 \overline{) 6.86} \\
 \underline{4.90} \\
 1.960 \\
 \underline{1.960} \\
 0
 \end{array}$$

④ $11.28 \div 2.35$

$$\begin{array}{r}
 4.8 \\
 2.35 \overline{) 11.28} \\
 \underline{9.40} \\
 1.880 \\
 \underline{1.880} \\
 0
 \end{array}$$

⑤ $0.336 \div 0.42$

$$\begin{array}{r}
 0.8 \\
 0.42 \overline{) 0.336} \\
 \underline{3.36} \\
 0
 \end{array}$$

⑥ $0.205 \div 0.25$

$$\begin{array}{r}
 0.82 \\
 0.25 \overline{) 0.205} \\
 \underline{2.00} \\
 50 \\
 \underline{50} \\
 0
 \end{array}$$

6 小数のわり算 ⑦

名前

ねらい

1/10の位までの小数÷1/100の位までの小数の除法の計算や、整数÷小数の除法の計算の仕方を理解する。

□ 次の計算を筆算でしましょう。

① $8.6 \div 3.44$

$$\begin{array}{r}
 2.5 \\
 3.44 \overline{) 8.60} \\
 \underline{6.88} \\
 1.720 \\
 \underline{1.720} \\
 0
 \end{array}$$

② $3.8 \div 4.75$

$$\begin{array}{r}
 0.8 \\
 4.75 \overline{) 3.800} \\
 \underline{3.800} \\
 0
 \end{array}$$

③ $5.58 \div 1.24$

$$\begin{array}{r}
 4.5 \\
 1.24 \overline{) 5.58} \\
 \underline{4.96} \\
 6.20 \\
 \underline{6.20} \\
 0
 \end{array}$$

④ $0.8 \div 0.25$

$$\begin{array}{r}
 3.2 \\
 0.25 \overline{) 0.80} \\
 \underline{7.5} \\
 50 \\
 \underline{50} \\
 0
 \end{array}$$

⑤ $5 \div 2.5$

$$\begin{array}{r}
 2 \\
 2.5 \overline{) 5.0} \\
 \underline{5.0} \\
 0
 \end{array}$$

⑥ $24 \div 3.75$

$$\begin{array}{r}
 6.4 \\
 3.75 \overline{) 24.00} \\
 \underline{22.50} \\
 1.500 \\
 \underline{1.500} \\
 0
 \end{array}$$

6 小数のわり算 ⑧

名前

ねらい

除数と商の大きさの関係を理解する。

① 次の（ ）の中にあてはまる言葉を書きましょう。

わり算では、1より小さい数でわると、商は（ **わられる数** ）より大きくなります。

② 次の□の中にあてはまる不等号を書きましょう。

① $130 \div 0.8$ > 130

② $130 \div 1.02$ < 130

③ $0.7 \div 25$ < 0.7

④ $0.28 \div 0.09$ > 0.28

③ 商が12より小さくなるのはどれでしょうか。記号で答えましょう。

① $12 \div 1.95$

② $12 \div 0.03$

③ $12 \div 1.02$

④ $12 \div 2.1$

⑤ $12 \div 0.89$

答え（ ①、③、④ ）

④ 商が■より大きくなるのはどれでしょうか。記号で答えましょう。

① $\blacksquare \div 3.2$

② $\blacksquare \div 0.09$

③ $\blacksquare \div 1.09$

④ $\blacksquare \div 0.4$

⑤ $\blacksquare \div 8$

答え（ ②、④ ）

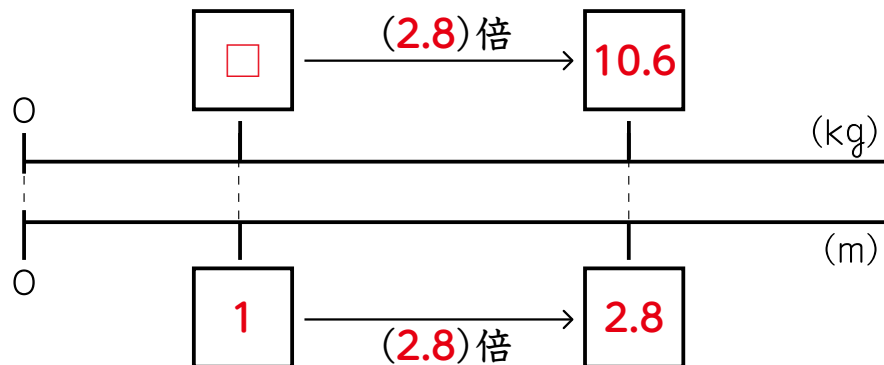
6 小数のわり算 ⑨

名前

ねらい 商を四捨五入して概数で表す場合の除法の計算の仕方を理解する。

- ① 2.8mの鉄の棒^{ぼう}の重さをはかったら、10.6kgでした。
この鉄の棒1mの重さは何kgでしょうか。

- ① 上の問題を数直線に表しましょう。求める重さを□にしましょう。



- ② ①の数直線から式を書きましょう。

〈式〉 $\square \times 2.8 = 10.6$
 $\square = 10.6 \div 2.8$

- ③ 商は四捨五入して、上から2けたのがい数で求めましょう。

答え 約3.8kg

- ② 商は四捨五入して上から2けたのがい数を求めましょう。

- ① $6.9 \div 7.8$ (0.88) $0.88 \cancel{4}0\dots$
- ② $7.6 \div 4.3$ (1.8) $1.\cancel{7}6\dots$
- ③ $7.3 \div 0.9$ (8.1) $8.1\cancel{1}\dots$
- ④ $7 \div 7.9$ (0.89) $0.8\cancel{8}9\dots$

6 小数のわり算 ⑩

名前

ねらい 小数の除法のあまりの大きさについて理解する。

- ① 次の（ ）の中にあてはまる言葉を書きましょう。

小数のわり算では、あまりの小数点は、（ わられる数 ）のものの
小数点にそろえてうちます。

- ② 1.8mのひもを、0.4mずつ切っていくします。

- ① 0.4mのひもは何本できて、何mあまるでしょうか。

〈式〉 $1.8 \div 0.4$

- ② 商は何の位まで求めればよいでしょうか。

（ — ）の位まで

- ③ 筆算をして、商とあまりを求めましょう。

また、答えも求めましょう。

商

4

あまり

0.2

〈筆算〉

$$\begin{array}{r} 4 \\ 0.4 \overline{) 1.8} \\ \underline{1.6} \\ 0.2 \end{array}$$

答え 4本できて、あまり0.2m

- ③ 9.67mのテープを、1.4mずつ切っていくします。

1.4mのテープは何本できて、何mあまるでしょうか。

〈式〉 $9.67 \div 1.4 = 6 \text{ あまり } 1.27$

答え 6本できて、1.27mあまる

6 小数のわり算 ⑪

名前

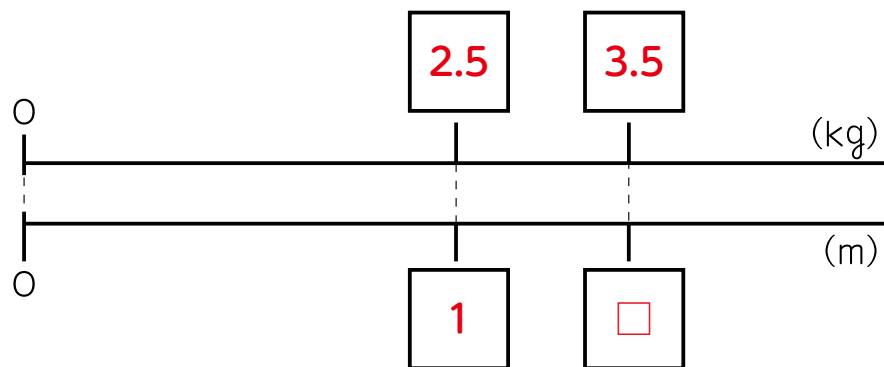
ねらい 基準量や比較量が小数の場合に、何倍かを求めることができる。(第一用法)

- ① 2.5kgのみかんが入った箱㊤と、3.5kgのみかんが入った箱㊦があります。
㊦の箱の重さは、㊤の箱の重さの何倍でしょうか。

① 次の () の中には、㊤、㊦のどちらがあてはまるでしょうか。

(㊤) の重さを1とみたとき、(㊦) の重さはどれだけに
あたるかを求める問題です。

② 求める重さを□にして、問題の場面を数直線に表しましょう。



③ 式に表して、答えを求めましょう。

〈式〉 $3.5 \div 2.5 = 1.4$

答え 1.4倍

- ② 2.4Lのりんごジュースと3.6Lのオレンジジュースがあります。
オレンジジュースの量はりんごジュースの量の何倍でしょうか。

〈式〉 $3.6 \div 2.4 = 1.5$

答え 1.5倍

6 小数のわり算 ⑫

名前

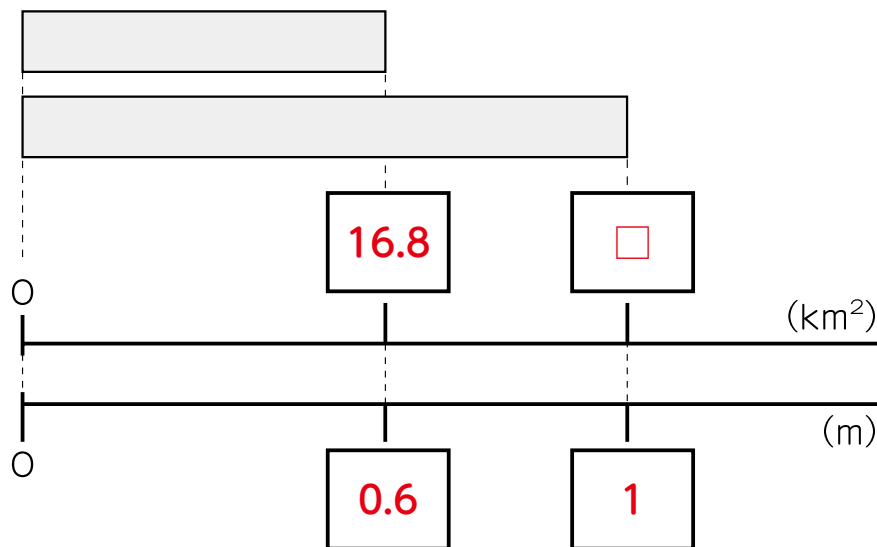
ねらい

比較量や倍を表す数が小数の場合に、基準量を求めることができる。(第三用法)

① 下の□にあてはまる数を書きましょう。

A町の面積は 16.8km^2 で、これはB町の面積の0.6倍です。B町の面積は何 km^2 ですか。

① 求める数を□として、問題の場面を数直線に表しましょう。



② かけ算の式に表して、答えを求めましょう。

$$\langle \text{式} \rangle \square \times 0.6 = 16.8$$

$$\square = 16.8 \div 0.6$$

$$= 28$$

答え 28km^2

② 2.4mのリボンがあります。これは青いリボンの長さの0.8倍です。

青いリボンの長さは何mでしょうか。

$$\langle \text{式} \rangle 2.4 \div 0.8 = 3$$

答え 3m

6 小数のわり算 ⑬

名前

ねらい ある2つの数量の関係と別の2つの数量の関係を、倍を用いて比べることができる。

たかしさんは、オリンピックやパラリンピックの各国の総メダル数について調べました。

	1964 東京大会		2016 リオ大会	
	オリンピック	パラリンピック	オリンピック	パラリンピック
日 本	29	10	41	24
アメリカ	90	122	121	115
イギリス	18	60	67	147

日本の1964 東京大会の総メダル数は
29+10で39こだね



- それぞれの国の総メダル数は、
1964 東京大会から2016 リオ大会で約何倍になったでしょうか。
小数第1位までの概数で表しましょう。

日 本

$$\langle \text{式} \rangle (41 + 24) \div (29 + 10) = 1.\overset{7}{\cancel{6}\cancel{6}\cancel{6}}\dots\dots$$

答え 約1.7倍

アメリカ

$$\langle \text{式} \rangle (121 + 115) \div (90 + 122) = 1.1\cancel{1}\cancel{3}\dots\dots$$

答え 約1.1倍

イギリス

$$\langle \text{式} \rangle (67 + 147) \div (18 + 60) = 2.7\cancel{4}\cancel{3}\dots\dots$$

答え 約2.7倍

★ 算数ワールド
ご石の数え方

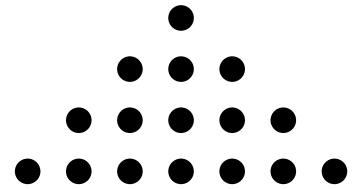
名
前

ねらい 具体的な事柄を式に表したり、式に表されている関係を読み取ったりして、式についての理解を深める。

□ 右の図のように、三角形にならべた

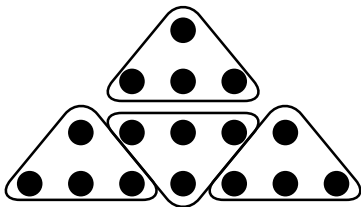
ご石の数の求め方を図と式で表しています。

①～⑥の式を表している図を下から選んで、
() に記号を書きましょう。

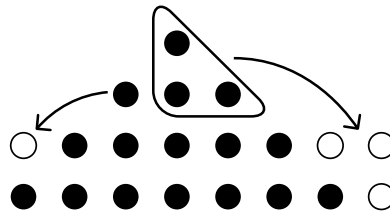


- ① $(1+2+3) \times 2 + 4$ (う) ② $3 \times 5 + 1$ (え)
 ③ $4 \times 7 - 6 \times 2$ (か) ④ 2×8 (い)
 ⑤ $4 \times 3 + 2 \times 2$ (お) ⑥ 4×4 (あ)

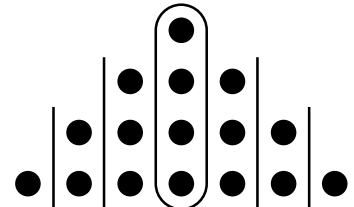
あ



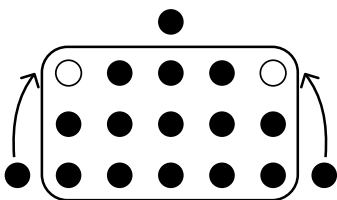
い



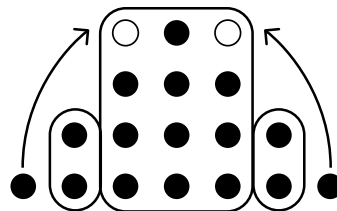
う



え



お



か

